第 1 章 TOP メニュー

2 マスタ

3 日常業務

4 集計・分析

5 棚卸

6 インポート・エクスポート

7 Deiriガイド

1-1.　メニュー構成

在庫管理プログラム deiri(以下 deiri と記述) の取扱説明書です。これから deiri の便利な機能をご紹介していきます。

1-1-1.　ログイン

deiri を起動させ、ログインしましょう。

1　ログイン ID とパスワードを入力します。

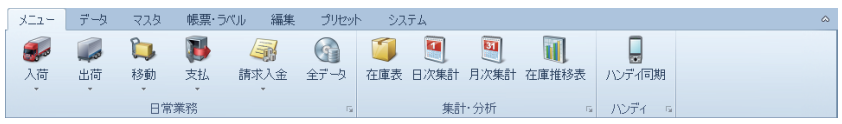
2　入力が終わったら ログイン をクリックして下さい。
ログイン完了です。

1-1-2.　各種タブ内ボタン

起動直後の画面です。deiri の各種機能はタブによって分類されています。タブをクリックするとメニュー、データ、マスタ、帳票・ラベル、編集、プリセット、システムに切り替わり、ボタンも入れ替わります。

1-1-3.　メニュータブ

ログイン後にすぐ表示されています。おもに日常業務に必要な処理が揃っています。



・入荷
　クリックするとサブメニュー (発注・受入指示・入荷実績・強制入荷・入荷返品) が表示されます。

・出荷
　クリックするとサブメニュー (見積・受注・出荷指示・出荷実績・強制出荷・出荷返品) が表示されます。

・移動
　クリックするとサブメニュー (移動指示・移動実績・強制移動) が表示されます。

・支払
　クリックするとサブメニュー (支払予定・支払) が表示されます。

・請求入金
　クリックするとサブメニュー (請求・入金) が表示されます。

・全データ
　全取引データを一覧で参照できる画面です。

・在庫表
　荷主別、倉庫別に在庫情報を表示する画面です。

・日次集計
　各種取引データを日次で集計する機能です。

・月次集計
　各種取引データを月次で集計する機能です。

・在庫推移表
　在庫数の変動を月別に集計する機能です。

・ハンディ同期
　ハンディの通信を待ち受け可能にするボタンです。待ち受け可能状態にすると背景が に変わります。

1-1-4.　データタブ

登録されたデータで様々な書類を作ったり、他の PC とデータのやりとりをします。

・インポート
　CSV や EXCEL(XLS) 型式の外部データをインポートする機能です。

・問合せ No
　CSV 型式の宅配便問合せ No をインポート・エクスポートする機能です。

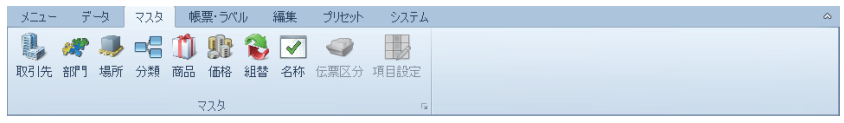
・箱ラベル発行
　deiri で梱包単位で在庫管理するための箱ラベルを発行する機能です。A4 サイズ 4 列 11 行 の 44 面取りラベルシートを使用できます。

・在庫引当
　現時点の在庫情報を基に、出荷指示データへ出荷倉庫を引当していきます。

・請求データ作成
　出荷データを基に請求データを作成します。

1-1-5.　マスタタブ

取引先や商品の基本情報を入力します。むかし、取引台帳や商品台帳などで管理していた情報を、マスタに登録することでデータベース化します。



・取引先
荷主・得意先・出荷先・仕入先・連絡先などの取引マスタを登録・編集します。

・部門
日次・月次集計などで集計時に利用する部門マスタを登録・編集します。

・場所 (倉庫)
在庫管理上の場所 (倉庫) マスタを登録・編集します。

・分類
商品をグループ管理するための分類マスタを登録・編集します。

・商品
商品マスタを登録・編集します。

・価格
取引先別・商品分類別の販売・仕入価格や掛率を設定します。

・組換
特定の商品を組合わせて別の商品に組替する際の、組合わせ情報を登録・編集します。

・名称
各種入力画面での選択肢のリストを登録・編集します。

・伝票区分
各種取引ごとのシステム動作を変更します。管理者のみが実行できます。

・項目設定
取引データの項目別のシステム動作を変更します。管理者のみが実行できます。

1-1-6.　帳票・ラベルタブ

メニュー
データ
マスタ
帳票・ラベル
編集
プリセット
システム
入荷予定表
出荷指示書
見積書
納品書
請求書
予定・指示
取引伝票
棚卸
ラベル・バーコード

1-1-7.　編集タブ

登録したデータを保存、印刷、検索など操作することができます。編集タブ内のボタンを単独で用いることはなく、データの一覧を表示した状態で使用します。使用方法はさまざまなので、各ボタンの役割は後述する各処理内でそのつど説明していきます。

・保存
　各種画面での修正後のデータを保存 (確定) するボタンです。保存せずに画面を閉じた場合は、変更がサーバーに反映されません。

・棚卸

・印刷
　各種画面を印刷するボタンです。印刷プレビューが表示されます。画面の種類によっては EXCEL や PDF 等のデータに外部出力できます

・ラベル
　ラベル発行に対応している画面において、ラベルプリンタなどにバーコード付ラベルを発行します。

・ブック印刷
　各種マスタ画面において、バーコード付の一覧表を印刷することができます。

・予定表

・キーワード
　キーワード検索に対応した画面において、画面内のデータを検索できます。サーバーから取得したデータ内で検索するため、データ取得条件から外れたデータは検索できません。

・最新の状態に更新
　サーバーから最新のデータを取得し、画面内のデータを更新します。編集中のデータがある場合、編集中のデータは破棄され、サーバー上のデータに上書きされます。

1-1-8.　プリセットタブ

各種画面の表示項目や列幅、フィルター・並び替え条件、印刷設定などの情報を記憶します。ユーザープリセットと全ユーザー共有プリセットの 2 種類があります。

1-1-9.　システムタブ

deiri 事態の情報や、設定変更を行います。おもに管理者が deiri を安全に管理するために使用します。

・ログイン
　ログインユーザーを登録・編集します。パスワードのリセットを行えますが、これは管理者のみが実行できます。

・セキュリティ
　各ロールごとの実行権限を編集できます。管理者・一般・ゲストのロールがあります。読取・変更・追加・削除・実行 (特殊権限) 別に権限を設定します。

・設定
　システム動作に係る項目の設定を変更します。

・情報
　deiri のバージョン情報を表示します。

memo

第２章 マスタ

2-1.　マスタの種類

マスタとは、在庫管理をしていく上で必要な基本的データです。在庫がどこに幾つあるのかを正確に把握し、在庫を精査するのに役立ちます。また、マスタ情報をバーコード化したり印刷して持ち運ぶこともでき、自社のワークフローと繋げれば、作業の正確化と効率化を図れます。　まずはどのようなマスタがあるのか、確認してみましょう。

2-1-1.　取引先マスタ

各種取引データ (40 ページ参照) の入力項目にある、荷主・得意先・出荷先・請求先・配送先のマスタです。 1 件の取引先が、荷主なのか得意先なのか出荷先なのか、設定することができます。売上・仕入の集計や、ハンディターミナルでの照合に利用されるとても重要な基礎データになります。入力項目は下図の通りです。

取引先マスタ項目

項目名	データタイプ	最大文字数	説明
取引先 ID	整数 (自動)	20	取引先 ID
取引先コード	文字	20	検索コード兼バーコードデータ
グループコード 1	文字	20	検索用グループコード 1
グループコード 2	文字	20	検索用グループコード 2
グループコード 3	文字	13	検索用グループコード 3
GLN	文字		Global Location Number
並び順	整数		並び順
荷主フラグ	On/Off		On にすると各種取引画面の荷主リストに表示されます。
得意先フラグ	On/Off		On にすると各種取引画面の得意先リストに表示されます。
仕入先フラグ	On/Off		On にすると各種取引画面の仕入先リストに表示されます。
出荷先フラグ	On/Off		On にすると各種取引画面の出荷先リストに表示されます。
配送先フラグ	On/Off		On にすると各種取引画面の配送先リストに表示されます。

連絡先フラグ	On/Off		将来の機能拡張のための予約フィールド。です。データ入力はしないで下さい。
取引先区分	整数		将来の機能拡張のための予約フィールド。です。データ入力はしないで下さい。
取引先名	文字	100	
読み仮名	文字	32	
略称	文字	32	
敬称	文字	8	
荷主	整数 (リスト)		荷主の取引先 ID
親取引先 ID	整数		親の取引先 ID
国	整数		
郵便番号	文字	8	
住所 1	文字	100	
住所 2	文字	100	
住所 3	文字	100	
部署名	文字	64	
役職	文字	64	
電話 1	文字	20	
電話 2	文字	20	
携帯番号	文字	20	
FAX	文字	20	
メールアドレス	文字	20	
ホームページアドレス	文字	256	
御担当者名	文字	20	取引先御担当者名
担当者	整数 (リスト)		自社側取引先担当者
締日	整数 (リスト)		取引先請求締日。請求データ作成時に利用します。
宅配便業者	整数 (リスト)		
運送料金区分	整数 (リスト)		
クール・着払等	整数 (リスト)		
時間指定	整数 (リスト)		
消費税区分	整数 (リスト)		
消費税丸め区分	整数 (リスト)		
単価丸め区分	整数 (リスト)		
単価丸め桁数	整数		
金額丸め区分	整数 (リスト)		
金額丸め桁数	整数		
入金方法	整数 (リスト)		

入金月	整数 (リスト)		
入金日	整数 (リスト)		
入金サイト	整数		
支払方法	整数 (リスト)		
支払月	整数 (リスト)		
支払日	整数 (リスト)		
支払サイト	整数		
SWIFT	文字	64	
IBAN	文字	64	
金融機関コード	文字	20	
金融機関名	文字	64	
支店コード	文字	8	
支店名	文字	64	
口座種別	整数		
口座番号	文字	20	
口座名義	文字	64	
備考 1	文字	無制限	
備考 2	文字	無制限	
備考 3	文字	無制限	
削除データ	整数		削除フラグ -1: 削除データ 1: 有効データ
最終更新者	整数 (リスト)		
作成者	整数 (リスト)		
更新日時	日付		
登録日時	日付		

2-1-2.　部門マスタ

各種取引画面の入力項目にある、部門のマスタです。売上や仕入などの部門別集計のために利用します。入力項目は下図の通りです。

部門マスタ項目

項目名	データタイプ	最大文字数	説明
部門 ID	整数 (自動)		
部門コード	文字	20	検索コード兼バーコードデータ
GLN	文字	13	Global Location Number
荷主	整数 (リスト)		荷主の取引先 ID
取引先	整数 (リスト)		将来の機能拡張のための予約フィールド。です。データ入力はしないで下さい。
親部門 ID	整数		将来の機能拡張のための予約フィールド。です。データ入力はしないで下さい。
部門名	文字	128	
アイコン	整数		アイコン画像の Index
並び順	整数		将来の機能拡張のための予約フィールド。です。データ入力はしないで下さい。
パス	文字	256	将来の機能拡張のための予約フィールド。です。データ入力はしないで下さい。
削除データ	整数		削除フラグ -1: 削除データ 1: 有効データ
最終更新者	整数 (リスト)		
作成者	整数 (リスト)		
更新日時	日付		
登録日時	日付		

2-1-3.　倉庫マスタ

在庫管理上の倉庫のマスタです。ツリー状に階層分けし、地域 - 倉庫 - フロア - 棚など在庫保管場所を定義します。

倉庫マスタ項目			
項目名	データタイプ	最大文字数	説明
倉庫 ID	整数 (自動)		
倉庫コード	文字	20	検索コード兼バーコードデータ
GLN	文字	13	Global Location Number
親倉庫 ID	整数		親の倉庫 ID
荷主	整数 (リスト)		荷主の取引先 ID
名称	文字	50	
アイコン	整数		アイコン画像の Index
グルーピング	チェックボックス		チェックを入れた項目の倉庫を親倉庫とし、下位の倉庫を在庫集計時にまとめ、在庫集計処理を高速にします。また、代表倉庫ごとに、発注点と安全在庫数を設定可能。
並び順	整数		在庫集計時の並び替え用 Index
パス	文字	256	階層構造をたどった場合のフルパス名
倉庫 1	文字	50	1 階層目の名称
倉庫 2	文字	50	2 階層目の名称
倉庫 3	文字	50	3 階層目の名称
倉庫 4	文字	50	4 階層目の名称
倉庫 5	文字	50	5 階層目の名称
倉庫 6	文字	50	6 階層目の名称
倉庫 7	文字	50	7 階層目の名称
倉庫 8	文字	50	8 階層目の名称
倉庫 9	文字	50	9 階層目の名称
初期ステータス	整数		将来の機能拡張のための予約フィールド。です。データ入力はしないで下さい。
削除データ	整数		削除フラグ -1: 削除データ 1: 有効データ
最終更新者	整数 (リスト)		

1 TOPメニュー
2 マスタ
3 日常業務
4 集計・分析
5 棚卸
6 インポート・エクスポート
7 Deiriガイド

作成者	整数 (リスト)		
更新日時	日付		
登録日時	日付		

2-1-4.　分類マスタ

商品マスタを分類分けするためのマスタです。商品マスタの検索、分類別の売上・仕入・在庫集計に利用します。また、価格マスタと組み合わせることで、取引先・分類別価格設定にも利用できます。

分類マスタ項目			
項目名	データタイプ	最大文字数	説明
分類 ID	整数 (自動)		
分類コード	文字	20	検索コード兼バーコードデータ
荷主	整数 (リスト)		荷主の取引先 ID
親分類 ID	整数		親の分類 ID
名称	文字	50	
アイコン	整数		アイコン画像の Index
並び順	整数		
販売掛率	実数		販売時の定価に対する標準掛率 (%)
仕入掛率	実数		仕入時の定価に対する標準掛率 (%)
パス	文字	256	階層構造をたどった場合のフルパス名
分類 1	文字	50	1 階層目の名称
分類 2	文字	50	2 階層目の名称
分類 3	文字	50	3 階層目の名称
分類 4	文字	50	4 階層目の名称
分類 5	文字	50	5 階層目の名称
分類 6	文字	50	6 階層目の名称
分類 7	文字	50	7 階層目の名称
分類 8	文字	50	8 階層目の名称
分類 9	文字	50	9 階層目の名称
削除データ	整数		削除フラグ -1: 削除データ 1: 有効データ
最終更新者	整数 (リスト)		
作成者	整数 (リスト)		
更新日時	日付		
登録日時	日付		

2-1-5.　商品マスタ

各種取引画面の入力項目にある、商品のマスタです。在庫、販売仕入管理上の商品データを登録します。同一の商品名でも荷姿 (単位) やサイズ、色などの性質が異なるものごとに登録することを推奨します。

商品マスタ項目

項目名	データタイプ	最大文字数	説明
商品 ID	整数 (自動)		
商品コード	文字	64	検索コード兼バーコードデータ
グループコード 1	文字	20	検索用グループコード 1
グループコード 2	文字	20	検索用グループコード 2
グループコード 3	文字	20	検索用グループコード 3
GTIN	文字	14	Global Location Number
JAN	文字	13	
商品名	文字	256	
荷主	整数 (リスト)		荷主の取引先 ID
得意先	整数 (リスト)		得意先の ClientID
仕入先	整数 (リスト)		仕入先の取引先 ID
分類	整数 (リスト)		分類マスタの ID
倉庫	整数 (リスト)		倉庫マスタ ID。商品既定の保管場所。
担当者	整数 (リスト)		商品担当者
メーカー	整数		製造元
型式	文字	64	
略称	文字	32	
仕様	文字	64	
初期在庫数	実数		未使用 (過去 ver との互換性のために存在します)
発注点	実数		
適正在庫数	実数		
単位	整数 (リスト)		
単位名称	文字	16	
入数	実数		

仕入原価	実数		
売価	実数		
定価	実数		メーカー小売希望価格
面積	実数		
体積 (才数)	実数		
重量	実数		
運送区分	整数 (リスト)		
毒劇管理区分	整数 (リスト)		
温度管理区分	整数 (リスト)		
備考 1	文字	MAX	
備考 2	文字	MAX	
備考 3	文字	MAX	
バーコードラベル ID	整数		将来の機能拡張のための予約フィールド。です。データ入力はしないで下さい。
在庫管理区分	整数 (リスト)		
親商品	整数		将来の機能拡張のための予約フィールド。です。データ入力はしないで下さい。
並び順	整数		将来の機能拡張のための予約フィールド。です。データ入力はしないで下さい。
アイコン画像	整数		将来の機能拡張のための予約フィールド。です。データ入力はしないで下さい。
フルパス名	文字	256	将来の機能拡張のための予約フィールド。です。データ入力はしないで下さい。
ランク	文字	2	
メーカー名	文字	64	
縦	文字	8	縦のサイズ
横	文字	8	横のサイズ
高さ	文字	8	高さのサイズ
サイズ	文字	24	
カラー	文字	16	
自社コード	文字	64	
社外コード	文字	64	
バーコード種別	整数		バーコード (2 次元含む) 種別
GS1 生成フォーマット	文字	256	
シリアル No 自動生成	On/Off		GS1 コード生成用シリアル No 自動生成フラグ
ロット No 自動生成	On/Off		GS1 コード生成用ロット No 自動生成フラグ
ロット No カウンター	整数		
有効期限自動生成	On/Off		GS1 コード生成用消費 (有効) 期限自動生成フラグ

有効期限日数	整数		
リードタイム	整数		将来の機能拡張のための予約フィールド。 です。データ入力はしないで下さい。
ロット No フォーマット	文字	256	ロット No 自動生成用フォーマット
削除データ	整数		削除フラグ -1: 削除データ 1: 有効データ
最終更新者	整数 (リスト)		
作成者	整数 (リスト)		
更新日時	日付		
登録日時	日付		

2-1-6.　価格マスタ

販売仕入時の価格を決定するためのマスタです。取引先・分類・商品別に、価格および掛率を設定します。分類と商品を同時に設定した場合は、商品設定が優先されます。掛率と価格を同時に設定した場合は、価格が優先されます。

価格マスタ項目

項目名	データタイプ	最大文字数	説明
価格 ID	整数 (自動)		
取引先	整数 (リスト)	64	価格設定対象の取引先
分類	整数 (リスト)	20	価格設定対象の分類
商品	整数 (リスト)		価格設定対象の商品
仕入掛率	実数		仕入掛率 (%)
販売掛率	実数		販売掛率 (%)
仕入価格	実数		仕入価格 (単価)
販売価格	実数		販売価格 (単価)
取引先商品名	文字	256	将来の機能拡張のための予約フィールド。です。データ入力はしないで下さい。
取引先商品コード	文字	64	将来の機能拡張のための予約フィールド。です。データ入力はしないで下さい。
備考	文字	MAX	
削除データ	整数		削除フラグ -1: 削除データ 1: 有効データ
最終更新者	整数 (リスト)		
作成者	整数 (リスト)		
更新日時	日付		
登録日時	日付		

2-1-7.　組替マスタ

製品の組立・分解によって、在庫を組み替えるためのマスタです。ハンディターミナルに組替・分解機能が実装されている場合にのみ利用可能です。組替元を製品、組替先を部品と置き換えるとイメージしやすいでしょう。

組替マスタ項目			
項目名	データタイプ	最大文字数	説明
組替 ID	整数 (自動)		
組替コード	文字	20	検索コード兼バーコードデータ
並び順	整数		
組替名	文字	128	
荷主	整数 (リスト)		荷主の取引先 ID
組替元	整数 (リスト)		
組替先	整数 (リスト)		
組替係数	実数		組替係数　組替元
自動取引	On/Off	256	将来の機能拡張のための予約フィールド。です。データ入力はしないで下さい。
削除データ	整数		削除フラグ -1: 削除データ 1: 有効データ
最終更新者	整数 (リスト)		
作成者	整数 (リスト)		
更新日時	日付		
登録日時	日付		

2-1-8.　名称マスタ

各種登録画面にある、選択リストの項目を管理するマスタです。

名称マスタ項目			
項目名	データタイプ	最大文字数	説明
名称 ID	整数 (自動)		
名称区分	整数 (リスト)		
名称コード	文字	20	検索コード兼バーコードデータ
並び順	整数		
名称	文字	128	
名称 2	文字	128	
適用日	日付		消費税率などの適用開始日
システム区分フラグ	On/Off		
削除データ	整数		削除フラグ -1: 削除データ 1: 有効データ
最終更新者	整数 (リスト)		
作成者	整数 (リスト)		
更新日時	日付		
登録日時	日付		

2-1-9.　伝票区分マスタ

各種取引の設定を行うことができます。プログラムの基本動作に影響しますので、慎重に登録を行って下さい。

伝票区分マスタ項目

項目名	データタイプ	最大文字数	説明
区分 ID	整数 (自動)		伝票区分 ID
ペア ID	整数		対になった取引の区分 ID
区分グループ ID	整数		伝票区分グループ ID
並び順	整数		
転写先 ID	文字	1024	伝票転写機能を利用する際の、転写先区分をカンマ「,」で区切って複数入力します。
アイコン	整数		将来の機能拡張のための予約フィールド。です。データ入力はしないで下さい。
区分名	文字	10	メニューに表示される区分の名称
単価列名	文字	64	採用する単価列名を設定します。
担当者取得先マスタ	文字	64	
在庫係数	実数		各種取引データの数量に対する在庫数の変動係数
引当可能在庫係数	実数		各種取引データの数量に対する引当可能在庫数の変動係数
原価係数	実数		各種取引データの数量に対する原価の変動係数
利益係数	実数		各種取引データの数量に対する利益の変動係数
発注係数	実数		各種取引データの数量に対する発注数の変動係数
受注係数	実数		各種取引データの数量に対する受注数の変動係数
入荷予定系数	実数		各種取引データの数量に対する入荷予定数の変動係数
出荷予定系数	実数		各種取引データの数量に対する出荷予定数の変動係数

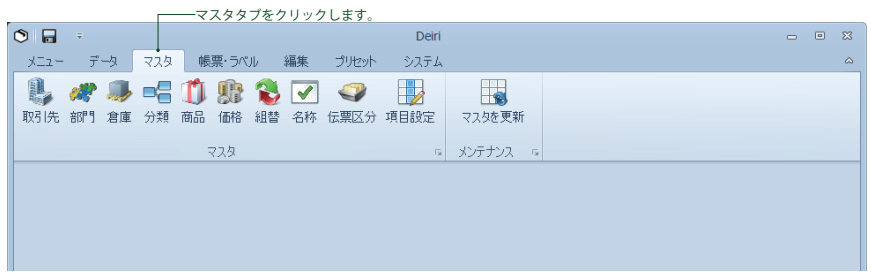
移動予定系数	実数		各種取引データの数量に対する移動予定数の変動係数
予約数係数	実数		各種取引データの数量に対する予約数の変動係数
貸出数係数	実数		各種取引データの数量に対する貸出数の変動係数
仕掛数係数	実数		各種取引データの数量に対する仕掛数の変動係数
実棚係数	実数		各種取引データの数量に対する実棚数の変動係数
在庫単価係数	実数		各種取引データの数量に対する在庫単価の変動係数
在庫金額係数	実数		各種取引データの数量に対する在庫金額の変動係数
売掛係数	実数		各種取引データの数量に対する売掛金額の変動係数
買掛係数	実数		各種取引データの数量に対する買掛金額の変動係数
請求係数	実数		各種取引データの数量に対する請求金額の変動係数
支払予定系数	実数		各種取引データの数量に対する支払予定金額の変動係数
入金額係数	実数		各種取引データの数量に対する入金額の変動係数
支払額係数	実数		各種取引データの数量に対する支払額の変動係数
キャッシュフロー係数	実数		各種取引データの数量に対する支払額の変動係数
現金計数	実数		各種取引データの数量に対するキャッシュフローの変動係数
伝票番号カウンター	実数		現在の伝票番号カウンター
メニュー表示	On/Off		メニューに表示するか否かを切り替えます。
システム区分フラグ	On/Off		
削除データ	整数		削除フラグ -1: 削除データ 1: 有効データ
最終更新者	整数 (リスト)		
作成者	整数 (リスト)		
更新日時	日付		
登録日時	日付		

memo

2-2.　マスタの新規登録

各マスタにデータを登録していきましょう。取引先・部門・商品・価格・組替・名称・伝票区分は一覧形式で、倉庫・分類はツリー形式で管理していくので注意して下さい。「1-2. マスタの新規登録」では、まず取引先・部門・商品・価格・組替・名称・伝票区分の新規データ登録を説明します。倉庫・分類の登録方法は 36 ページの「2-2-3. ツリー形式の新規登録」です。

それでは Deiri のマスタタブをクリックしてマスタボタンを表示させ、登録を始めましょう。



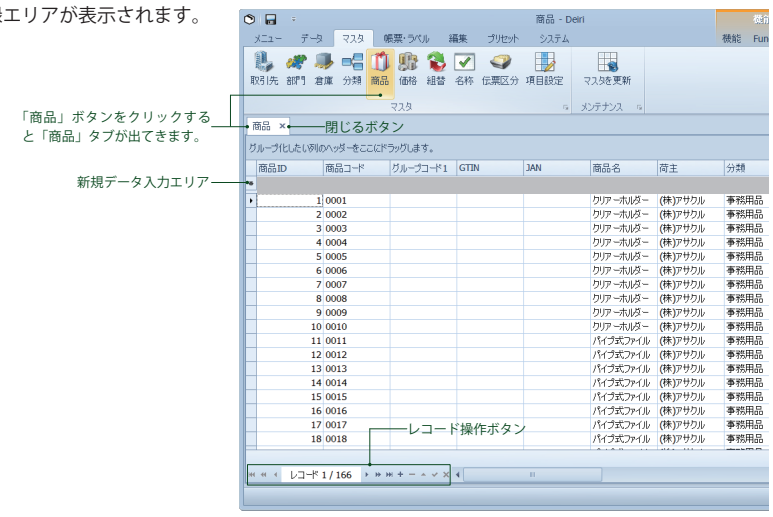
2-2-1.　一覧形式の新規登録

1　ボタンの選択

目的のボタンをクリックし、データエリアを表示させます。例として商品マスタを選択しました。取引先、部門、価格、組替、名称、伝票区分も同様に登録して下さい。

2　データエリア

「商品」タブの下に、データの登録エリアが表示されます。



3　データの入力

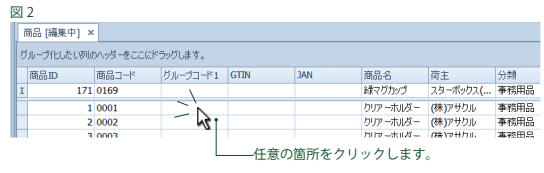
「1-1. マスタの種類」の各項を参考に、新規データ入力エリアにデータを入れて下さい。入力欄にドロップダウン ( ) が表示された場合は、ドロップダウンから選択して下さい。

4　データ登録

新規データの入力が終わったら、レコード操作ボタンの編集の終了 ( ) をクリックするか (図 1)、データ表示エリアの任意の箇所をクリックして下さい (図 2)。最下位に登録されます。

図 1

図 2



5　保存

登録がすべて終わったら、保存して終了です。編集タブの保存ボタンか、Deiri の左上の保存ボタンで行って下さい。

Point

レコード操作ボタン

一覧式のマスタのデータを編集する際に使うと便利な、編集補助ボタンです。

	最初		最後
	前ページ		次ページ
	前		次
	追加		削除
	編集		編集の終了
	編集のキャンセル		

2-2-2.　一覧形式のデータ修正・削除など

登録したデータの修正や削除、編集を行います。レコード操作ボタンの使い方も覚えると便利です。

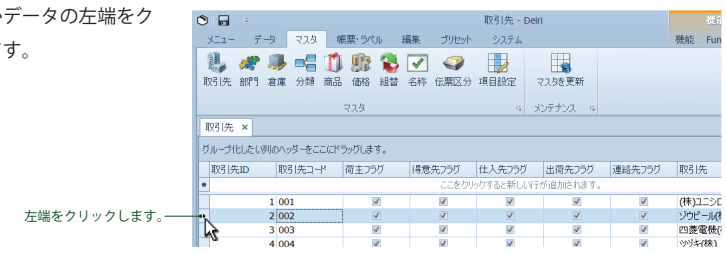
1 ボタンの選択

例として取引先マスタを修正・削除します。取引先ボタンをクリックし、データエリアを表示させましょう。

データの削除　→　2　～　4
修正その他　　→　5　～　6

2 データの選択

データが表示されました。削除したいデータの左端をクリックし、全体が選択されるようにします。

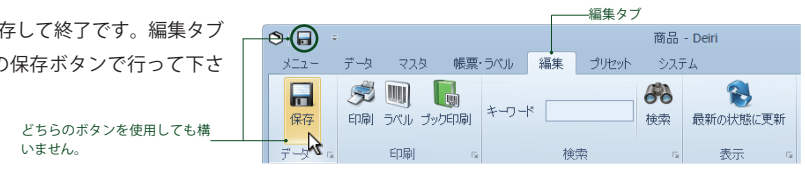


3 削除

レコード操作ボタン中の－をクリックします。削除確認メッセージが表示されるので､[はい]をクリックします。

4 保存

削除がすべて終わったら、保存して終了です。編集タブの保存ボタンか、Deiri の左上の保存ボタンで行って下さい。



5 編集・修正

編集や修正を行うときは、目的の項目内にカーソルを入れて変更して下さい。カーソルを入れてドロップダウン ( ) が表示された場合は、ドロップダウンのメニューから選択して下さい。

6　保存

4 に同じ。

Point

一覧式データの複数選択

データの削除や移動など、同時に複数した方が都合いいときは、以下のいずれかの方法で複数選択して下さい。

① 削除したいデータの左端から、下 (または上) にドラッグします。

② 削除したいデータの左端をクリックし、Shift を押しながら別なデータの左端をクリックすると、挟まれたデータ全てが選択されます。

Shift+ クリック。取引先 ID1 ～ 6 までが選択対象に。

③ Ctrl を押しながら削除したいデータの左端をクリックすると、とびとびに選択できます。

Ctrl+ クリック。取引先 ID1、3、5 が選択対象に。

2-2-3.　ツリー形式の新規登録

1 ボタンの選択

ツリー形式でマスタを管理するのは、倉庫と分類です。ここでは倉庫を例に説明します。倉庫ボタンをクリックし、データエリアを表示させましょう。

2 追加

データ表示エリアが表示されました。新規にフォルダを作成するには、追加をクリックして下さい。新規フォルダが作成されます。

3 フォルダ名の変更

フォルダ名を編集します。カーソルを新規内へ入れるか、編集をクリックしてフォルダ名を変更して下さい。右図ではフォルダ名を「本社」としました。

4 フォルダの追加

必要ならば追加をクリックしてフォルダを増やしていきましょう。

5 保存

登録がすべて終わったら、保存して終了です。編集タブの保存ボタンか、Deiri の左上の保存ボタンで行って下さい。

2-2-4.　ツリー形式の階層構造

パソコンでのデータ管理は、フォルダを利用するのが一般的です。親フォルダの中に子フォルダを入れ、階層化してデータを管理していきます。ツリー形式のマスタも同じ感覚で、親ツリーの中に子ツリー・孫ツリーを入れ、階層構造で管理していくと便利です。

例として、倉庫マスタを見てみましょう。

上図は「本社」「倉庫 1」「棚 A」が同階層に作成されています。まだ親ツリーも子ツリーも設定されていません。「本社」「倉庫 1」「棚 A」の位置づけは

「本社」敷地内に「倉庫 1」があり、その倉庫内に「棚 A」がある。

と考えるのが素直でしょう。そのとおりの階層構造にすると下図のようになります。

階層に表すと、現場にいる人もいない人も「本社 (親ツリー)」「倉庫 1(子ツリー)」「棚 A(孫ツリー)」の位置づけがよく分かり、在庫の認識に役立ちます。

また、「倉庫 1」のみ、「棚 A」のみの在庫集計や日次集計などができ、在庫変動を細かく理解することができます。

階層構造の重要性が分かったところで、実際の手順にしたがって階層を作ってみましょう。

1 親・子・孫の決定

ツリーを親・子・孫に分類します。今回、親ツリーは「本社」、子ツリーは「倉庫 1」、孫ツリーは「棚 A」としました。

2 子ツリーの移動

子ツリーを移動します。「倉庫 1」のフォルダにカーソルを合わせ、「本社」に重なるようドラッグします。重なる途中で黄色い矢印が出たらドラッグを離して下さい。

3 子ツリーの移動完了

親ツリーの中に子ツリーが含まれました。

4 孫ツリーの移動

孫ツリーを移動します。「棚 A」のフォルダにカーソルを合わせ、「倉庫 1」に重なるようドラッグします。重なる途中で黄色い矢印が出たらドラッグを離して下さい。

5 孫ツリーの移動完了

子ツリーの中に孫ツリーが含まれました。

6 保存

作業がすべて終わったら、保存して終了です。編集タブの保存ボタンか、Deiri の左上の保存ボタンで行って下さい。

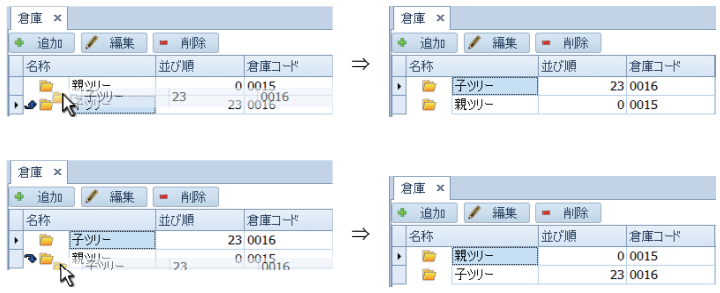
Point

ツリー移動時の矢印

ツリーの階層を作成するためにツリー名のフォルダをドラッグすると、と と という矢印が出てきます。

親ツリーの中に子ツリーを含めたいとき、を目安にドラッグを離して下さい。

ツリーの上下を変えたいとき、かを目安にドラッグを離して下さい。



2-2-5.　ブック印刷

ハンディターミナルで読み込めるバーコードを一覧印刷できます。印刷できるものは取引先・部門・倉庫・分類・商品です。様々なワークフローに応じて活用して下さい。

1　データの表示

バーコード一覧にしたいデータを表示します。マスタタブを選択して下さい。例として、取引先ボタンをクリックしてデータを表示しました。

2　ブック印刷ボタンの表示

編集タブをクリックし、ブック印刷ボタンを選択します。

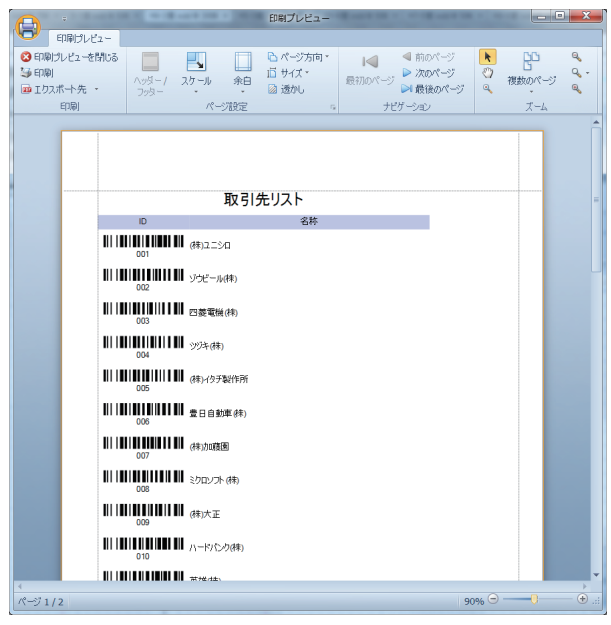
Point　**ブックの選択印刷**

ブック印刷は選択したデータのみの印刷も可能です。35 ページの「一覧式データの複数選択」を参考にデータを選択してから操作を行って下さい。

3　印刷プレビューの表示

印刷プレビューが表示されました。

印刷をしたいときは 印刷 をクリックしてプリンターに出力して下さい。エクスポートしたいときは エクスポート先 から、目的のデータ形式を選択して下さい。



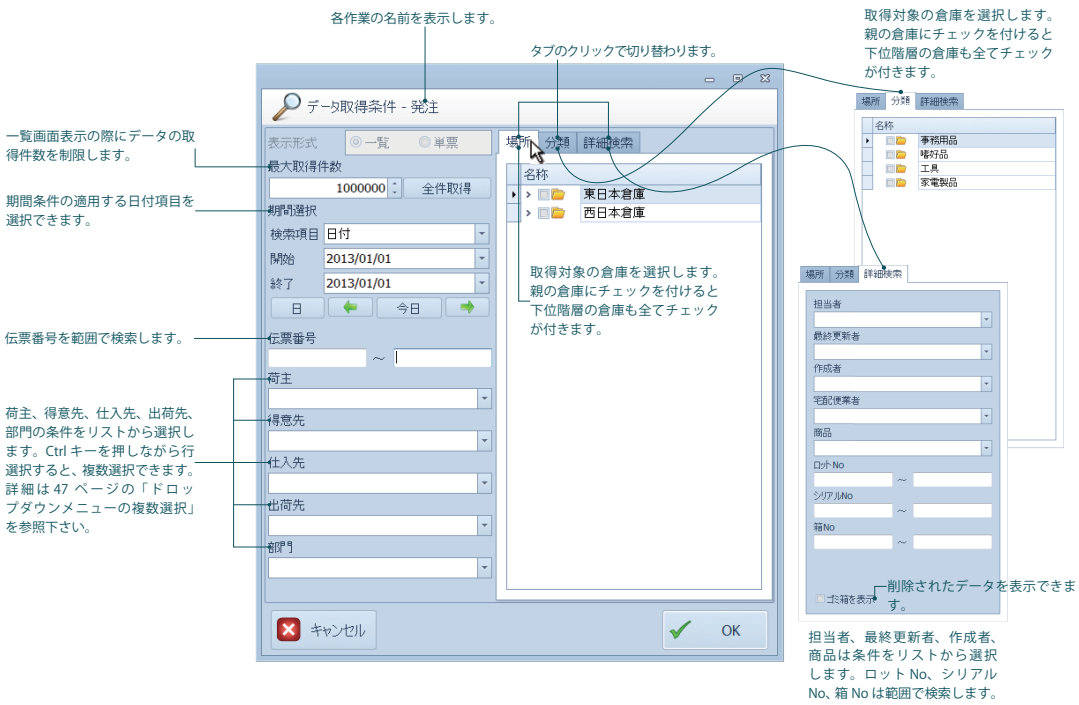
memo

第 3 章 日常業務

3-1.　日常業務共通操作

3-1-1.　データ取得条件

deiri には入荷・出荷・発注…など多くの取引画面があります。下記の手順で必要項目を入力・選択してデータを取得しましょう。



1　検索項目の設定

「検索項目」のドロップダウンをクリックしてリストを表示し、選択します。

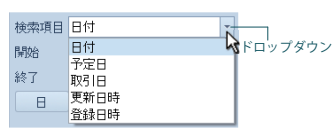
日付 : 取引データの計上日

予定日 : 各種取引の実行予定日

取引日 : 各種取引が取引先において計上される日

更新日時 : データの最終更新日時

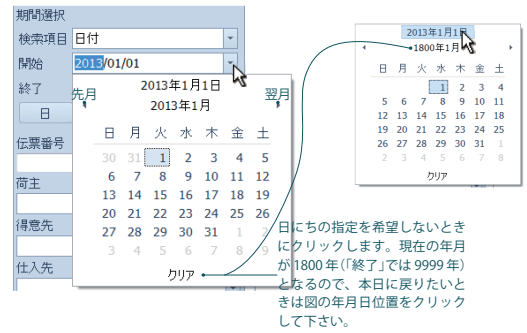
登録日時 : データの登録開始日時



2　日付の設定

「開始」のドロップダウンをクリックするとカレンダーが表示されます。希望の日にちを指定して下さい。クリアを選択すると空白になり（　　）、過去全データを表示させます。

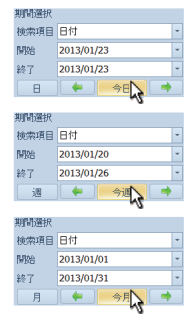
「終了」の選択方法も上に同じです。「終了」欄を空白にすると、「開始」日付以降の全データを表示させます。



日にちの指定を希望しないときにクリックします。現在の年月が 1800 年（「終了」では 9999 年）となるので、本日に戻りたいときは図の年月日位置をクリックして下さい。

Point　期間設定セレクトボタン①

期間設定セレクトボタン　日　←　今日　→　でも日時設定を行えます。　日　をクリックするたび単位が　週　、　月　に切り替わり、連動して　今日　が　今週　、　今月　に切り替わります。「開始」「終了」の年月日も変わりますので、確認しましょう。



「日」単位設定で「今日」をクリックすると本日が表示されます（例：2013 年 1 月 23 日［水］）。

「週」単位設定で「今週」をクリックすると本日を含む週が表示されます（例：2013 年 1 月 20 日［日］～ 26［土］）。

「月」単位設定で「今月」をクリックすると本日を含む月が表示されます（例：2013 年 1 月 1 日［火］～ 31［木］）。

Point　期間設定セレクトボタン②

期間設定セレクトボタンの矢印　←　→　で「開始」「終了」の日付を移動できます。

・単位「日」：1 日ずつ
・単位「週」：7 日ずつ
・単位「月」：1 ヶ月ずつ

Shift+　←　で「開始」だけ、Shift+　→　で「終了」だけの日付を移動できます。移動する日数は同上です。

3　伝票番号や荷主などの詳細設定

伝票番号や荷主、得意先、仕入先、出荷先、部門を指定をします。伝票番号は直接空欄に入力して下さい。伝票番号以外はドロップダウンをクリックしてリストを表示させ、選択して下さい。選択した後は空白欄　　をクリックすると欄内に入ります。未入力の場合は全てのデータを指定したことになります。

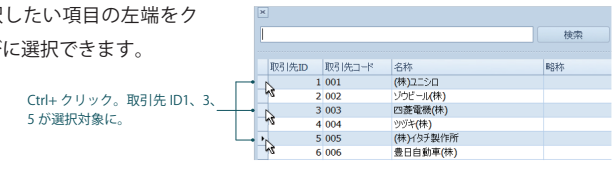
Point

ドロップダウンメニューの複数選択

ドロップダウン からの選択が必要な「荷主」や「得意先」などは、同時に複数選択した方が便利な場合があります。以下のいずれかの方法で複数選択して下さい。

① 選択したい項目の左端を、下 (または上) にドラッグします。

② Ctrl を押しながら選択したい項目の左端をクリックすると、とびとびに選択できます。



4　場所や分類などの詳細設定

場所や分類、詳細検索をタグで切り替えながら指定します。必要なところを入力するか、ドロップダウンをクリックしてリストを表示させ、選択して下さい。未入力の場合は全てのデータを指定したことになります。

5　決定

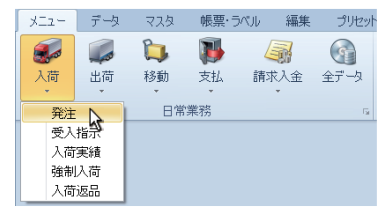
✓ OK をクリックします。

3-1-2.　各種取引データ入力項目

日常業務は「入荷」「出荷」「移動」「支払」「請求入金」「全データ」にデータを入力しながら行います。各々の取引の入力項目ですが、例えば「入荷」「出荷」で入力項目が異なるということはなく、deiri では全て共通です。ただ、取引の種類ごとに使用する項目を選択していきます。選択方法は以下の通りです。

1　データ入力画面の呼び出し

例として「発注」を呼び出します。入荷ボタンをクリックして「発注」を選択しましょう。データ取得条件ウィンドウが表示されるので 45 ページの「3-1-1. データ取得条件」を参考に設定し、最後に [OK] をクリックして下さい。



2　右クリックメニューの表示

データ入力画面が表示されました。どの項目でもいいので、項目上にカーソルを合わせて右クリックをして下さい (図 1)。右クリックメニューが表示されるので、「列の選択」をクリックしましょう (図 2)。

図 1

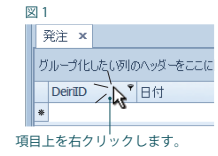
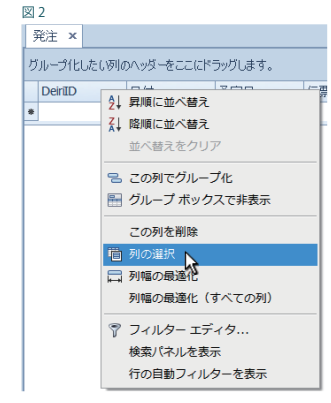
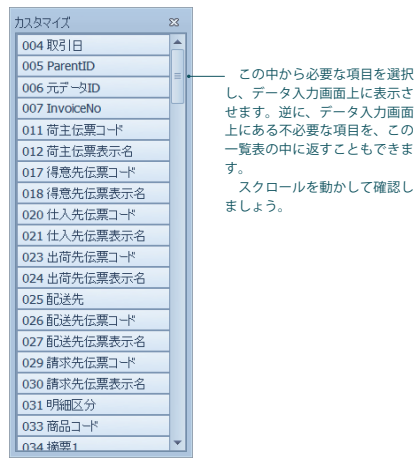


図 2



3　項目名の表示

データ入力画面上に項目名一覧表が現れます。かなりの数がありますので、スクロールを動かしながら項目を確認して下さい。



4　入力項目の選択①　取り出し

項目一覧表中にデータ入力画面に移動させたい項目が見つかったら、その項目を取り出す必要があります。例として「取引日」を取り出しましょう。

「取引日」にカーソルを合わせ、左クリックを押したままにします (図 1)。

そのままデータ入力画面の既存の項目の方へドラッグします。配置位置に矢印⇧⇩が出るので、目安にして下さい (図 2)。

配置位置でマウスを放すと「取引日」がデータ入力画面に入りました (図 3)。

以上で取り出し終了です。必要に応じて他の項目も取り出しを行って下さい。

図 1

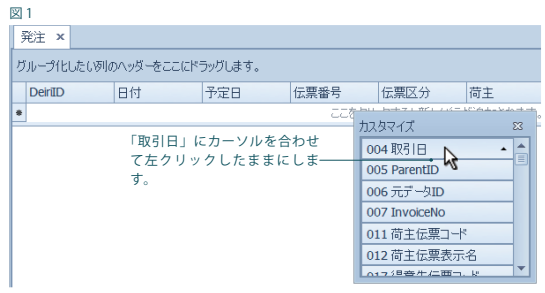


図 2

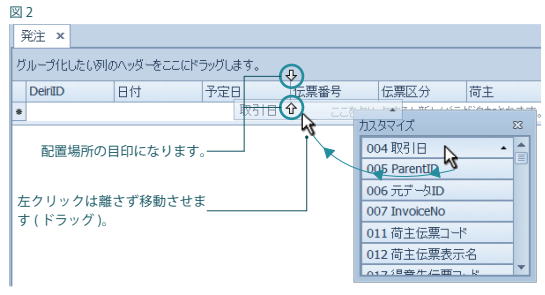
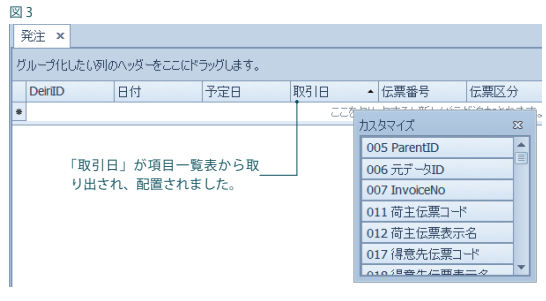


図 3



5　入力項目の選択②　戻し

データ入力画面の不必要な項目を、項目一覧表の中に戻します。例として「日付」を戻しましょう。

「日付」にカーソルを合わせ、左クリックを押したままにします。そのままデータ入力画面から項目一覧表へドラッグします (図 1)。

マウスを放すと「日付」が項目一覧表へ入ります (図 2)。

以上で戻しは終了です。必要に応じて他の項目も戻して下さい。

図 1

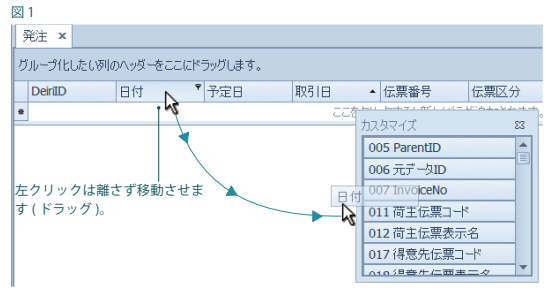
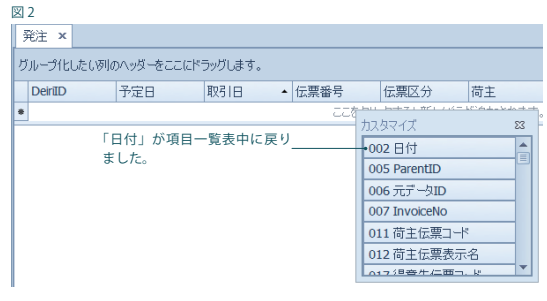


図 2



6　項目選択の終了

項目の取捨選択が済んだら、いよいよここからデータ入力開始です。各取引のデータ入力を行って日常業務を始めて下さい。

取引伝票データ共通項目

	項目名	データタイプ	最大文字数	説明
必須入力	日付	日付		データ計上日 (実際に在庫や金額が動いた日付。出荷日など)
	伝票区分	整数 (リスト)		伝票区分マスタの ID。この取引の性質を決定します。
在庫管理単位(SKU)	荷主	整数 (リスト)		荷主の取引先 ID
	倉庫	整数 (リスト)		倉庫マスタの ID
	商品	整数 (リスト)		商品マスタの ID
	在庫ステータス	整数 (リスト)		傷物・返品などの状態
	使用期限	日付		有効 (消費) 期限
	入荷日	日付		
	ロット No	文字	32	
	シリアル No	文字	32	
	箱 No	文字	20	
	追加管理項目 1	文字	32	オプション在庫管理項目 1
	追加管理項目 2	文字	32	オプション在庫管理項目 2
	追加管理項目 3	文字	32	オプション在庫管理項目 3
予定日		日付		出荷データなどでは出荷予定日
取引日		日付		取引先相手に関係する日付。売上日など。

Parent ID	整数		伝票ヘッダレコードの deiri ID
元データ ID	整数		出荷実績に対し、出荷指示などの基になったデータへの参照。残数・残額管理に使用します。
Invoice No	文字	20	
伝票番号	文字	20	
荷主伝票コード	文字	20	荷主の取引先コード。登録時の取引先コードが取引データに保存されます。
荷主伝票表示名	文字	64	登録時の取引先名称が取引データに保存されます。
担当者	整数 (リスト)		担当者のログイン ID
部門	整数 (リスト)		部門マスタの ID
得意先	整数 (リスト)		得意先の取引先 ID
得意先伝票コード	文字	20	得意先の取引先コード。登録時の取引先コードが取引データに保存されます。
得意先伝票表示名	文字	64	登録時の取引先名称が取引データに保存されます。
仕入先	整数 (リスト)		仕入先の取引先 ID
仕入先伝票コード	文字	20	仕入先の取引先コード。登録時の取引先コードが取引データに保存されます。
仕入先伝票表示名	文字	64	登録時の取引先名称が取引データに保存されます。
出荷先	整数 (リスト)		出荷先の取引先 ID
出荷先伝票コード	文字	20	仕入先の取引先コード。登録時の取引先コードが取引データに保存されます。
出荷先伝票表示名	文字	64	登録時の取引先名称が取引データに保存されます。
配送先	整数 (リスト)		配送先もしくは中間業者の取引先 ID
配送先伝票コード	文字	20	配送先もしくは中間業者の取引先 ID の取引先コード。登録時の取引先コードが取引データに保存されます。
配送先伝票表示名	文字	64	登録時の取引先名称が取引データに保存されます。
請求先	整数 (リスト)		請求先の取引先 ID
請求先伝票コード	文字	20	請求先の取引先コード。登録時の取引先コードが取引データに保存されます。
請求先伝票表示名	文字	64	登録時の取引先名称が取引データに保存されます。
明細区分	整数 (リスト)		
商品コード	文字	64	商品伝票表示コード。登録時の商品コードが取引データに保存されます。
摘要 1	文字	64	登録時の商品名称が取引データに保存されます。
摘要 2	文字	64	登録時の商品マスタの形式と仕様が取引データに保存されます。
行番号	整数		伝票内の行番号。伝票ヘッダレコードは行番号が 0 になります。
ペア ID	整数		対になる取引への参照。
グループコード 1	文字	64	検索用グループコード 1

グループコード 2	文字	64	検索用グループコード 2
グループコード 3	文字	64	検索用グループコード 3
取引ステータス	整数 (リスト)		連絡待ちや、出荷完了などのステータス
処理優先順位	実数		将来の機能拡張のために予約されたフィールドです。データは入力しないで下さい。
在庫管理番号	実数		将来の機能拡張のために予約されたフィールドです。データは入力しないで下さい。
数量	実数		取引数量
参照数	実数		このレコードを参照している取引データの合計数量。 数量 - 参照数 = 残数となります。
参照金額	実数		このレコードを参照している取引データの合計金額。 金額 - 参照金額 = 残額となります。
在庫数	実数		この取引によって変動する在庫数。通常は伝票区分マスタの設定にしたがい、自動計算されます。
引当可能在庫数	実数		この取引によって変動する在庫数。通常は伝票区分マスタの設定にしたがい、自動計算されます。
発注数	実数		この取引によって変動する発注数。通常は伝票区分マスタの設定にしたがい、自動計算されます。
受注数	実数		この取引によって変動する受注数。通常は伝票区分マスタの設定にしたがい、自動計算されます。
入荷予定	実数		この取引によって変動する入荷予定数量。通常は伝票区分マスタの設定にしたがい、自動計算されます。
出荷予定	実数		この取引によって変動する出荷予定数量。通常は伝票区分マスタの設定にしたがい、自動計算されます。
移動予定	実数		この取引によって変動する移動予定数量。通常は伝票区分マスタの設定にしたがい、自動計算されます。
予約数	実数		この取引によって変動する予約数量。通常は伝票区分マスタの設定にしたがい、自動計算されます。
貸出数	実数		この取引によって変動する貸出数量。通常は伝票区分マスタの設定にしたがい、自動計算されます。
仕掛数	実数		この取引によって変動する仕掛数量。通常は伝票区分マスタの設定にしたがい、自動計算されます。
実棚数	実数		この取引によって変動する実棚数量。通常は伝票区分マスタの設定にしたがい、自動計算されます。
単価	実数		単価計算機能によって算出されます。手入力もできます。
在庫単価	実数		将来の機能拡張のために予約されたフィールドです。データは入力しないで下さい。
在庫金額	実数		将来の機能拡張のために予約されたフィールドです。データは入力しないで下さい。
金額	実数		合計金額 (小計)
原単価	実数		
原価金額	実数		原価合計金額 (小計)

粗利	実数		
上代単価	実数		
上代金額	実数		
売掛金額	実数		この取引によって変動する売掛金額。通常は伝票区分マスタの設定にしたがい、自動計算されます。
買掛金額	実数		この取引によって変動する買掛金額。通常は伝票区分マスタの設定にしたがい、自動計算されます。
調整金額	実数		この取引によって変動する調整金額。通常は伝票区分マスタの設定にしたがい、自動計算されます。
請求金額	実数		この取引によって変動する請求金額。通常は伝票区分マスタの設定にしたがい、自動計算されます。
支払予定額	実数		この取引によって変動する支払予定額。通常は伝票区分マスタの設定にしたがい、自動計算されます。
入金額	実数		この取引によって変動する入金額。通常は伝票区分マスタの設定にしたがい、自動計算されます。
支払額	実数		この取引によって変動する支払額。通常は伝票区分マスタの設定にしたがい、自動計算されます。
現金変動額	実数		この取引によって変動する現金変動学。通常は伝票区分マスタの設定にしたがい、自動計算されます。
キャッシュフロー	実数		この取引によって変動するキャッシュフロー。通常は伝票区分マスタの設定にしたがい、自動計算されます。
掛率 (%)	実数		上代に対する掛率
消費税区分	整数 (リスト)		内税・外税の区分
消費税	実数		税率と、消費税区分に基づいて計算された消費税分の金額。通常自動計算されます。
消費税率 (%)	実数		この取引に適用された消費税率 (%)
税込単価	実数		税率と、消費税区分に基づいて計算された消費税込単価。通常自動計算されます。
税込金額	実数		税率と、消費税区分に基づいて計算された消費税込金額。通常自動計算されます。
税抜金額	実数		税率と、消費税区分に基づいて計算された消費税抜金額。通常自動計算されます。
決済方法	整数 (リスト)		
面積	実数		
体積 (才数)	実数		
重量	実数		
GS1 データ	文字	256	
ラベル発行日時	日付		
宅配便業者	整数 (リスト)		
宅配便送状伝票番号	文字	20	

宅配便個口数	整数		
運送料金区分	整数 (リスト)		
運送料金	実数		
運送注意事項	文字	無制限	ワレモノ・下積厳禁など
クール・着払等	整数 (リスト)		
着日指定	日付		
時間指定	整数 (リスト)		
国	整数 (リスト)		
郵便番号	文字	8	
住所 1	文字	100	
住所 2	文字	100	
住所 3	文字	100	
会社名	文字	64	
部署名	文字	64	
役職	文字	64	
電話 1	文字	20	
電話 2	文字	20	
携帯番号	文字	20	
FAX	文字	20	
御担当者名	文字	64	
備考 1	文字	無制限	
備考 2	文字	無制限	
備考 3	文字	無制限	
備考 4	文字	無制限	
備考 5	文字	無制限	
備考 6	文字	無制限	
備考 7	文字	無制限	
備考 8	文字	無制限	
備考 9	文字	無制限	
削除データ	整数		データの状態兼削除フラグ　0 未満 : 削除データ
入力種別	整数 (リスト)		この取引を登録した方法や、入力端末の種類などが自動的に登録されます。
入力端末名	文字	64	
ハンディ入力日時	日付		ハンディターミナルなどの、非リアルタイム端末でこの取引データが入力された時間を示します。
最終更新者	整数 (リスト)		

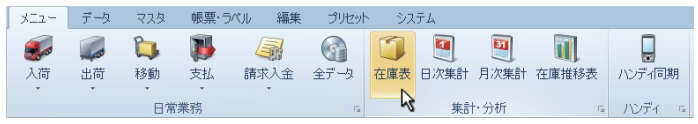
作成者	整数 (リスト)		
更新日時	日付		
登録日時	日付		
インポート元	整数		インポート元のデータ
ユーザーデータ	文字	無制限	特殊データが保存されます。

memo

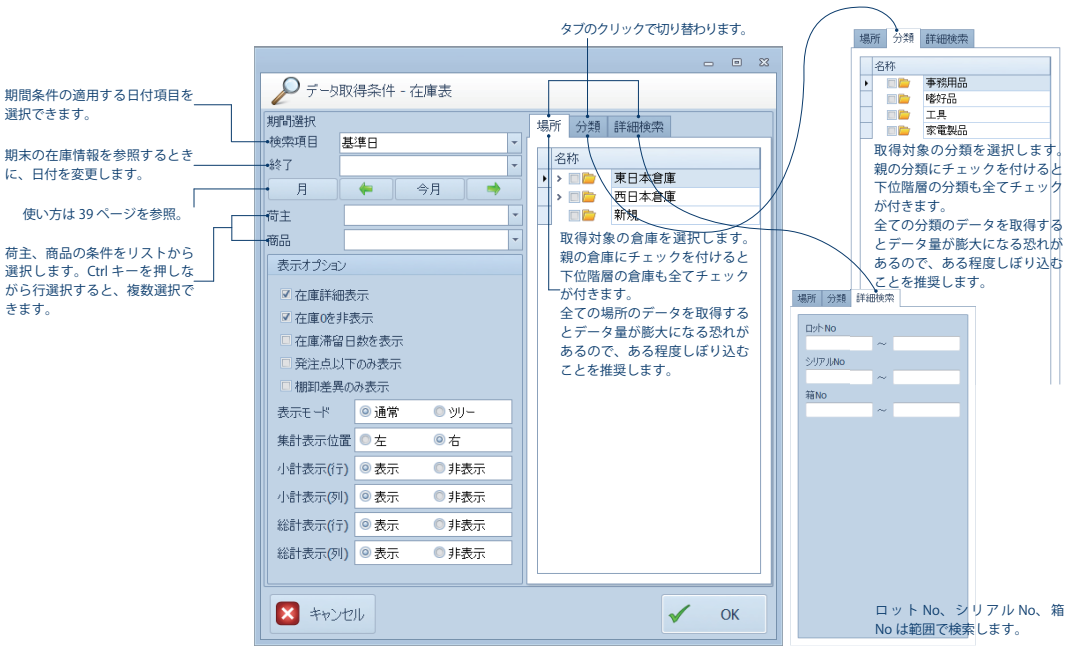
第４章 集計・分析

4-1.　集計・分析 共通操作

4-1-1.　在庫表



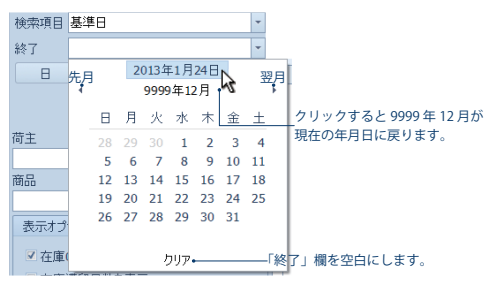
システム上の在庫データを確認するときは在庫表を開きます。在庫表ボタンをクリックするとデータ取得条件が表示されるので、必要項目を入力・選択してデータを取得しましょう。



1　検索項目の設定

「基準日」に設定すると、ある特定の時点の在庫上表を表示します。

必要ならば「終了」も指定します。先行登録された未来の取引データを含む全てのデータを反映させるため、既定では 9999 年 12 月 31 日時点の在庫を表示しています。

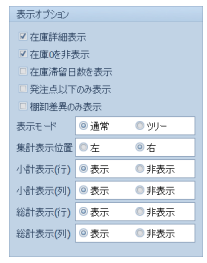


2　荷主、商品の設定

荷主、商品をドロップダウンのリストから選択します。選択した後は空白欄　　をクリックすると欄内に　　入ります。

3　表示オプションの設定

表示オプションの必要項目にチェックを付けます。「表示モード」以下はどちらかの◎をクリックして下さい。



	在庫詳細表示	在庫管理項目の表示・非表示を切り替えることで、在庫データの集計・表示時間を短縮できます。在庫詳細表示オプションを選択すると、下記項目が表示されます。 ・代表倉庫以下の階層にある倉庫 ・有効期限 ・入庫日 ・ロット No ・箱 No ・シリアル No ・追加管理項目 1 ・追加管理項目 2 ・追加管理項目 3
	在庫 0 を非表示	在庫数が 0 になっている在庫データを非表示 (集計除外) にします。 この項目をチェックすると、在庫数と実棚数以外の数量項目 (引当可能在庫数・入荷予定数・出荷予定数など) の計算が、期待通りにならない可能性があります。在庫数の確認のみを高速に行いたい場合に利用して下さい。
	在庫滞留日数を表示	在庫が入荷してからの経過日数を計算します。在庫の移動があった場合には、該当の倉庫に移動してきた時点から計算されます。現在、「在庫詳細表示」機能とは併用できません。 この計算処理には時間がかかりますので、適切なデータ取得条件を指定することをお勧めします。
	発注点以下のみ表示	在庫数が発注点を下回っている在庫データのみを表示します。「在庫詳細表示」「在庫 0 を非表示」機能とは併用できません。
	棚卸差異のみ表示	棚卸の結果とシステム上在庫数との間に差異がある在庫データのみを抽出します。「在庫 0 を非表示」機能とは併用できません。
	表示モード	在庫表示をツリー形式にできます。
	集計表示位置	集計列の表示位置を、データの左右どちらかにするか選択できます。
	小計表示 (行列) 総計表示 (行列)	合計の表示をするか否か選択できます。

4　場所や分類などの詳細設定

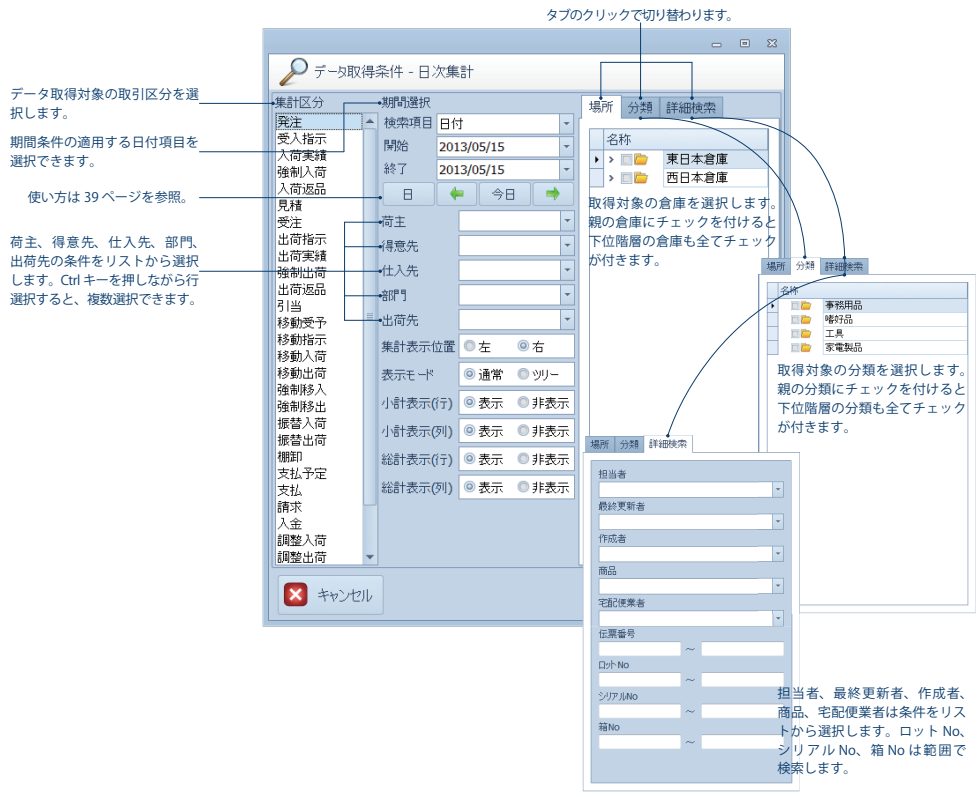
場所や分類、詳細検索をタグで切り替えながら指定します。必要なところをチェックするか、直接入力して下さい。未指定の場合は全てのデータを指定したことになりますが、データ取得に時間がかかったりデータ量が膨大になる恐れがあるため、なるべくしぼり込みをすることをお奨めします。

5　決定

✓ OK をクリックします

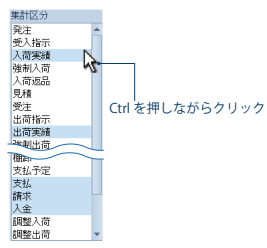
4-1-2.　日次・月次集計

一定期間内に在庫数がどのくらい変動したのかを知りたいとき、日次・月次集計で確認できます。日次集計ボタン・月次集計ボタンをクリックするとデータ取得条件が表示されるので、必要項目を入力・選択してデータを取得しましょう。



1 「集計区分」を指定

Ctrl+ クリックで複数選択できます。複数を選択することで出荷と入荷を比較したり、出荷指示と出荷実績の比較で出荷漏れを探したりすることができます。



2 検索項目の設定

ドロップダウンをクリックして選択します。

日付 : 取引データの計上日

予定日 : 各種取引の実行予定日

取引日 : 各種取引が取引先において計上される日

更新日時 : データの最終更新日時

登録日時 : データの登録開始日時

3 日付の設定

ドロップダウンをクリックして「開始」「終了」の日付を選択します。39 ページの「2 日付の設定」を参照して下さい。

4 荷主、得意先などの詳細設定

荷主、得意先、仕入先、部門、出荷先をドロップダウンのリストから選択します。選択した後は空白欄をクリックすると欄内に入ります。未入力の場合は全てのデータを指定したことになります。

5 集計表示、表示モードなどの詳細設定

表示条件の当てはまる方を選択します。どちらかのをクリックして下さい。

集計表示位置	集計列の表示位置を、データの左右どちらかにするか選択できます。
表示モード	在庫表示をツリー形式にできます。
小計表示 (行列) 総計表示 (行列)	合計の表示をするか否か選択できます。

6 場所や分類などの詳細設定

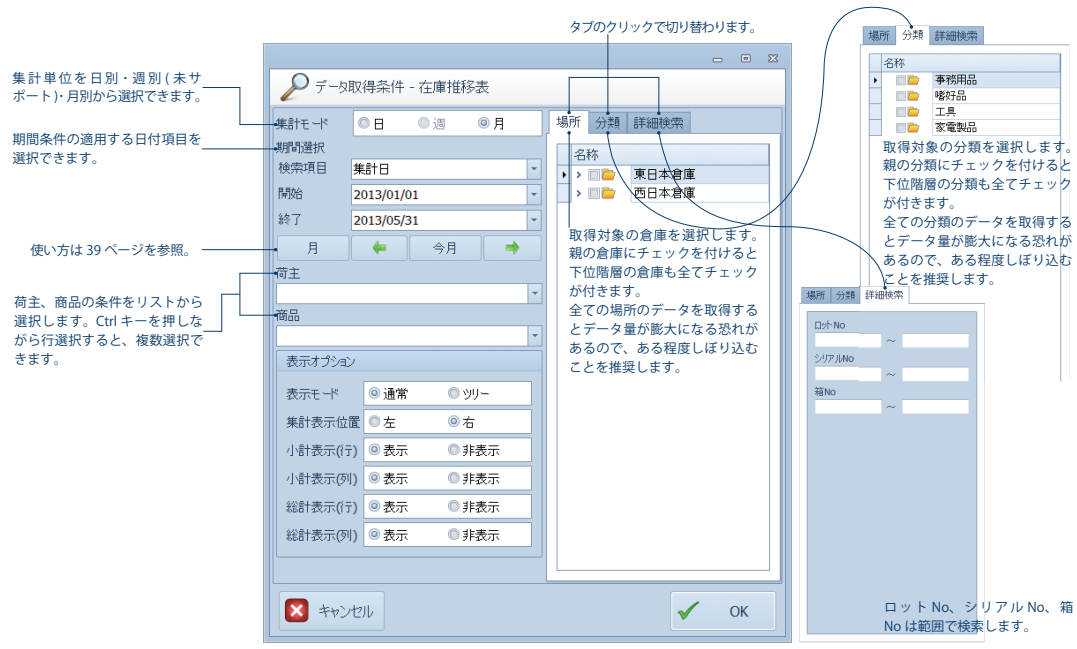
場所や分類、詳細検索をタグで切り替えながら指定します。必要なところをチェックするか、直接入力して下さい。未指定の場合は全てのデータを指定したことになります。

7 決定

OK をクリックします。

4-1-3.　在庫推移表

指定期間内での在庫の入荷数や出荷数、そして最終的に残った在庫数が日単位・週単位・月単位で分かります。在庫推移表ボタンをクリックするとデータ取得条件が表示されるので、必要項目を入力・選択してデータを取得しましょう。



第 5 章 棚卸

5-1.　事前確認

棚卸を始める前に、確認しておくことがいくつかあります。チェック ☑ してみましょう。

☐　deiri の機能タブをクリックして、棚卸で使用するボタンを表示して下さい。→下記 Point 参照

☐　在庫変動を止めて下さい。→ 68 ページの「5-1-1. 在庫変動を止める」参照

☐　実棚クリアをして下さい。→ 69 ページの「5-1-2. 実棚クリア」参照

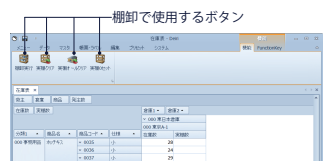
☐　実棚 0 セットを使用するか決めて下さい。→ 71 ページの「5-1-3. 実棚 0 セット」参照

Point

機能タブ

在庫表ボタンをクリックして在庫表を表示すると、機能タブが現れます。機能タブをクリックすると棚卸作業に必要なボタンが出てきます。

→



ボタンの役割は以下の通りです。

・棚　卸　実　行　：棚卸の結果、「システム上の在庫数」≠「実際の在庫数」だったとき、強制的に在庫数を実棚数で置き換えます。置き換える範囲は、在庫表を開くときのデータ取得条件に従います。

・実 棚 ク リ ア　：実棚数を空白にします。空白にする範囲は、在庫表を開くときのデータ取得条件に従います。

・実棚オールクリア：全倉庫・全商品に関する実棚データをクリアします。クリアの範囲は、在庫表を開くときのデータ取得条件に関わりません。

・実 棚 0 セ ッ ト　：実棚数に 0 が入ります。

5-1-1.　在庫変動を止める

棚卸を実施するときは、在庫の変動を防止しましょう。入出庫操作などの在庫数に影響のある操作は、棚卸中にすることをお奨めできません。

5-1-2.　実棚クリア

前回の棚卸データが残ったまま棚卸を行った場合､実棚数は「前回棚卸データ + 今回棚卸データ」となります。これはハンディーターミナルでの棚卸結果が実棚数に上書きされるのではなく、加算されるからです。棚卸を始める前に前回の棚卸データは必ずクリアしましょう。

1　在庫表を開く

在庫表を開き、実棚数を表示します。前回棚卸データが残っているか確認して下さい。右図は前回棚卸データが残っている図です。

残ってないとき　→　実棚クリアの必要なし

残っているとき　→　2 ～ 4

2　実棚クリアボタンをクリックする

機能タブをクリックして棚卸で使用するボタンを表示させて下さい。その中の実棚クリアを選択します。

3　クリアする

確認ダイアログが表示されるので [OK] を選択します。

4　終了

完了メッセージが表示されるので [OK] をクリックします。在庫表の実棚数が空白になって表示されたら実棚クリアは終了です。

Point

空白と 0 の違い

実棚数は実棚クリアをすると空白になります。実棚 0 セットをするかハンディーターミナルの棚卸で「0」を登録すると「0」が入ります。どちらにしても在庫数 0 個を指すように思われがちですが、全く意味が違います。

実棚数が空白のとき

事務用品のリングファイル A4 がシステム上 29 個あり、リングファイル B5 がシステム上 16 個あります。

実棚クリアをして棚卸をした結果、リングファイル B5 の実棚数は 50 個でしたが、リングファイル A4 の実棚数は空白のままでした。考えられることは以下です。

①リングファイル A4 の実棚数をハンディターミナルで登録し忘れた。

②リングファイル A4 が倉庫に存在しなかった。

実棚数が 0 のとき

事務用品のリングファイル A4 がシステム上 29 個あり、リングファイル B5 がシステム上 16 個あります。

実棚クリアをして棚卸をした結果、リングファイル B5 の実棚数は 50 個でしたが、リングファイル A4 の実棚数は 0 でした。考えられることは以下です。

①リングファイル A4 の在庫がなかったので、「0」をハンディターミナルで登録した。

5-1-3.　実棚 0 セット

棚卸を手軽かつ、より正確に行うための補助機能です。実棚 0 セットを行うと実棚数にあらかじめ「0」が登録され、棚卸漏れを防ぎます。

実棚 0 セットの役割は基本的に一斉棚卸の補助です。在庫数が 1 度全て 0 個となるので、毎日棚卸を実施するような業務形態では使用する必要ありません。しかし、商品現物のバーコードで在庫管理を行っている場合は違います。商品がなければバーコードを読取れないどころか、そもそも在庫切れであることすら認識できません。そのようなとき実棚 0 セットを行わず在庫表の実棚数を空白にしたままデータを保存すると、システムの都合上、棚卸前の在庫数がそのまま登録されます。したがって、実際の在庫が 0 個なのにもかかわらず「在庫あり」という認識で日々の業務を行うことになってしまいます。それを防ぐには実棚 0 セットが非常に有効的です。使用するにあたってメリット・デメリットがありますので、よく検討して本機能をご利用ください。

1　在庫表を開く

在庫表を開き、実棚数を表示します。または実棚クリアをした状態にします。

2　実棚 0 セットボタンをクリックする

機能タブをクリックして棚卸で使用するボタンを表示させて下さい。その中の実棚 0 セットを選択します。

3　データ取得条件を設定

どの範囲を 0 セットするかを決めます。棚卸を行う倉庫と分類にチェックを入れて下さい。親のフォルダにチェックをすると全ての子フォルダにチェックが入ります。何もチェックしないときは全てに実棚 0 セットが適用されます。

4　操作確認

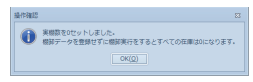
0 セットを行うならば [OK] を選択します。

5　終了

実棚数に 0 が入りました。在庫が 0 個に設定されたことになります。

Point　**警告文**

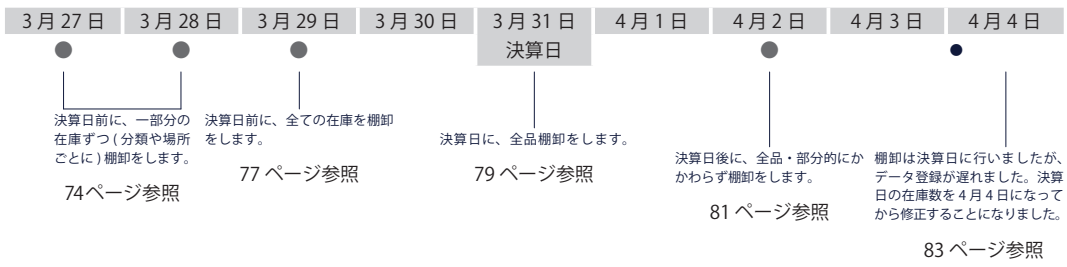
実棚 0 セット実行後に警告文が出ます。



ハンディターミナルで読み込んできた棚卸データをシステムに反映させずに棚卸実行を行うと、0 セットされている場合、在庫数が 0 になってしまいます。注意しましょう。

5-2.　棚卸

「システム上の在庫数」と「実際の在庫数」に差異がないかをチェックするのが棚卸です。正確な在庫管理を継続していくためにとても重要で、定期的に行います。棚卸の方法もタイミングも様々ありますが、ここでは大きく基本的な 5 パターンに分けて説明します。



ここでは上図を基に説明を進めていきます。3 月 31 日を決算日とし、その前後で棚卸をする想定です。以下、棚卸に関する説明に出てくる日付は上図に基づいた架空の参考例です。決算日は御社に従って下さい。

5-2-1.　決算日前、一部分ずつ棚卸

在庫を複数の倉庫で保管しているとき、棚卸を全品一気に行わず、日にちを分けて行うことがあります。その場合の原則として、在庫数にあまり動きのない倉庫から棚卸をしましょう。

1　在庫表を開く

在庫表を開き、実棚数を表示します。実棚クリアをして下さい (59 ページ参照)。

Point　**倉庫の指定**

在庫表を取得するとき、これから棚卸を実施する倉庫を指定しましょう。

2　第 1 回、棚卸開始

指定した倉庫へ行き、ハンディターミナルで棚卸作業を実施して下さい。終了したら登録したログデータを deiri へ転送します。

3　在庫表を開く

deiri の在庫表を見て、実棚数フィールドにハンディターミナルで登録した数量が反映されていることを確認して下さい。

すでに在庫表を開いていた場合は最新の状態に更新して下さい。更新方法は、編集タブを選択して [最新の状態に更新] ボタンをクリックします。

4　保存

保存をします。第 1 回棚卸はこれで終わりです。

5　第 2 回、棚卸開始

まだ棚卸をしていない倉庫の棚卸を実施します。**1** を参考に在庫表を開いて下さい。このとき実棚クリアをしないで下さい。実行すると第 1 回目の棚卸データが消去されてしまいます。

棚卸が終了したら登録したログデータを deiri へ転送します。**3** を実行して下さい。全ての倉庫の棚卸が終了次第、**6** へ進みます。

6　差異の確認

deiri 上の在庫数と、ハンディターミナルで登録してきた実棚数の差異を確認して下さい。

deiri 上の在庫数＝実棚数　→　**7**　へ
deiri 上の在庫数≠実棚数　→　**8**　へ

7　終了

実棚クリアをして棚卸は終了です。

8　調査

deiri 上の在庫数とハンディターミナルで登録してきた実棚数が異なるときは、棚卸漏れや、過去の取引データに誤りがある可能性があります。調査して下さい。

棚卸漏れがあったときは、改めてハンディターミナルで足りない分だけ数量を入力すると、実棚数を追加できます。過去の取引データに誤りがあったときは、過去の入出荷データの誤っている箇所を修正して下さい。

調査の結果、

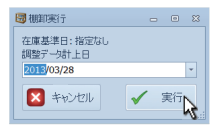
deiri 上の在庫数＝実棚数　→　**7**　へ
deiri 上の在庫数≠実棚数　→　**9**　へ

9　棚卸実行

調査の結果、在庫数と実棚数との差異が解消できないときは、在庫数を強制的に実棚数で置き換えます。[棚卸実行] ボタンをクリックして下さい。

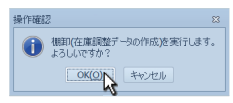
10　調整データの計上

調整データ計上日の入力ダイアログが表示されます。計上日は棚卸実行日 (3 月 28 日) から変更することができます。計上日以降の在庫数が変化するので注意して下さい。調整データ計上日は棚卸実行日を推奨します。



11　調整データの作成

操作確認メッセージが表示されます。[OK] をクリックします。



12　終了

差異が解消され「deiri 上の在庫数＝実棚数」となりました。最後に実棚数をクリアするメッセージが表示されるので、[OK] をクリックして下さい。

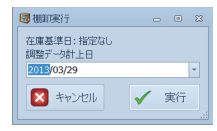
Point

調整データ計上日

棚卸の際に、システム上の在庫数と実棚数の差異を計上して、在庫数と実棚数を強制的に修正する機能です。「棚卸実行」ボタンをクリックすると修正が始まります。下記例を参考にして下さい。

① 決算日は 3 月 31 日です。3 月 29 日に棚卸をした結果、A4 ファイルの在庫数と実棚数に 2 個の差異がありました。

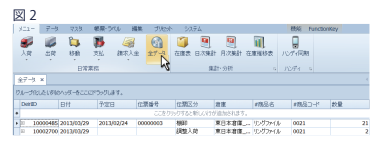
② 「棚卸実行」ボタンで修正します。調整データ計上日は棚卸日を指定しました。[OK] をクリックします。



③ 在庫表を確認して下さい。差異が解消され「deiri 上の在庫数＝実棚数」となりました (図 1)。また、メニュータブの全データを選択してデータを確認すると、差異であった 2 個が調整入荷として調整されたことが分かります (図 2)。

図 1

図 2



調整データの計上日は、決算日に対して棚卸をいつ行ったかで変更して下さい。

・棚卸を決算日前に行った：調整データ計上日は棚卸実施日以前の日付
・棚卸を決算日当日に行った：調整データ計上日は決算日以前の日付
・棚卸を決算日後に行った：調整データ計上日は決算日以前の日付

調整データ計上日を決算日以前 (棚卸実施日以前) にすることで、決算日 (棚卸日) の在庫数を変更することが可能です。調整データ計上日以降の在庫数が変更されるので注意して下さい。

5-2-2.　決算日前、全品棚卸

決算日前に在庫の変動を止め、全品棚卸を行います。

1　在庫表を開く

在庫表を開き、実棚数を表示します。実棚クリアをして下さい (59 ページ参照)。

2　棚卸開始

倉庫へ行き、ハンディターミナルで棚卸作業を実施して下さい。終了したら登録したログデータを deiri へ転送します。

3　在庫表を開く

deiri の在庫表を見て、実棚数フィールドにハンディターミナルで登録した数量が反映されていることを確認して下さい。

すでに在庫表を開いていた場合は最新の状態に更新して下さい。更新方法は、編集タブを選択して [最新の状態に更新] ボタンをクリックします。

4　差異の確認

deiri 上の在庫数と、ハンディターミナルで登録してきた実棚数の差異を確認して下さい。

deiri 上の在庫数＝実棚数　→　**5**　へ
deiri 上の在庫数≠実棚数　→　**6**　へ

5　終了

実棚クリアをして棚卸は終了です。

6　調査

deiri 上の在庫数とハンディターミナルで登録してきた実棚数が異なるときは、棚卸漏れや、過去の取引データに誤りがある可能性があります。調査して下さい。

棚卸漏れがあったときは、改めてハンディターミナルで足りない分だけ数量を入力すると、実棚数を追加できます。過去の取引データに誤りがあったときは、過去の入出荷データの誤っている箇所を修正して下さい。

調査の結果、

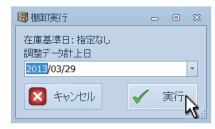
deiri 上の在庫数＝実棚数　→　**5**　へ
deiri 上の在庫数≠実棚数　→　**7**　へ

7　棚卸実行

調査の結果、在庫数と実棚数との差異が解消できないときは、在庫数を強制的に実棚数で置き換えます。[棚卸実行] ボタンをクリックして下さい。

8　調整データの計上

調整データ計上日の入力ダイアログが表示されます。計上日は棚卸実行日 (3 月 29 日) から変更することができます。計上日以降の在庫数が変化するので注意して下さい。調整データ計上日は棚卸実行日を推奨します。



9　調整データの作成

操作確認メッセージが表示されます。[OK] をクリックします。

10　終了

差異が解消され「deiri 上の在庫数＝実棚数」となりました。最後に実棚数をクリアするメッセージが表示されるので、[OK] をクリックして下さい。

5-2-3.　決算日当日、棚卸

決算日に在庫の変動を止め、全品棚卸を行います。

1　在庫表を開く

在庫表を開き、実棚数を表示します。実棚クリアをして下さい (59 ページ参照)。

2　棚卸開始

倉庫へ行き、ハンディターミナルで棚卸作業を実施して下さい。終了したら登録したログデータを deiri へ転送します。

3　在庫表を開く

deiri の在庫表を見て、実棚数フィールドにハンディターミナルで登録した数量が反映されていることを確認して下さい。

すでに在庫表を開いていた場合は最新の状態に更新して下さい。更新方法は、編集タブを選択して [最新の状態に更新] ボタンをクリックします。

4　差異の確認

deiri 上の在庫数と、ハンディターミナルで登録してきた実棚数の差異を確認して下さい。

deiri 上の在庫数＝実棚数　→　**5**　へ
deiri 上の在庫数≠実棚数　→　**6**　へ

5　終了

実棚クリアをして棚卸は終了です。

6　調査

deiri 上の在庫数とハンディターミナルで登録してきた実棚数が異なるときは、棚卸漏れや、過去の取引データに誤りがある可能性

があります。調査して下さい。

棚卸漏れがあったときは、改めてハンディターミナルで足りない分だけ数量を入力すると、実棚数を追加できます。過去の取引データに誤りがあったときは、過去の入出荷データの誤っている箇所を修正して下さい。

調査の結果、

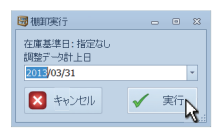
deiri 上の在庫数＝実棚数　→　**5**　へ
deiri 上の在庫数≠実棚数　→　**7**　へ

7　棚卸実行

調査の結果、在庫数と実棚数との差異が解消できないときは、在庫数を強制的に実棚数で置き換えます。[棚卸実行] ボタンをクリックして下さい。

8　調整データの計上

調整データ計上日の入力ダイアログが表示されます。計上日は棚卸実行日 (3 月 31 日) から変更することができます。計上日以降の在庫数が変化するので注意して下さい。調整データ計上日を決算日以前にすることで、決算日の在庫数を変更することが可能です。



9　調整データの作成

操作確認メッセージが表示されます。[OK] をクリックします。

10　終了

差異が解消され「deiri 上の在庫数＝実棚数」となりました。最後に実棚数をクリアするメッセージが表示されるので、[OK] をクリックして下さい。

5-2-4.　決算日後、棚卸

決算日が過ぎてから在庫の変動を止め、全品棚卸を行います。

1　在庫表を開く

在庫表を開き、実棚数を表示します。実棚クリアをして下さい (59 ページ参照)。

2　棚卸開始

倉庫へ行き、ハンディターミナルで棚卸作業を実施して下さい。終了したら登録したログデータを deiri へ転送します。

3　在庫表を開く

deiri の在庫表を見て、実棚数フィールドにハンディターミナルで登録した数量が反映されていることを確認して下さい。

すでに在庫表を開いていた場合は最新の状態に更新して下さい。更新方法は、編集タブを選択して [最新の状態に更新] ボタンをクリックします。

4　差異の確認

deiri 上の在庫数と、ハンディターミナルで登録してきた実棚数の差異を確認して下さい。

deiri 上の在庫数＝実棚数　→　**5**　へ
deiri 上の在庫数≠実棚数　→　**6**　へ

5　終了

実棚クリアをして棚卸は終了です。

6　調査

deiri 上の在庫数とハンディターミナルで登録してきた実棚数が異なるときは、棚卸漏れや、過去の取引データに誤りがある可能性があります。調査して下さい。

棚卸漏れがあったときは、改めてハンディターミナルで足りない分だけ数量を入力すると、実棚数を追加できます。過去の取引データに誤りがあったときは、過去の入出荷データの誤っている箇所を修正して下さい。

調査の結果、

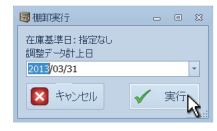
deiri 上の在庫数＝実棚数　→　**5**　へ
deiri 上の在庫数≠実棚数　→　**7**　へ

7　棚卸実行

調査の結果、在庫数と実棚数との差異が解消できないときは、在庫数を強制的に実棚数で置き換えます。[棚卸実行] ボタンをクリックして下さい。

8　調整データの計上

調整データ計上日の入力ダイアログが表示されます。計上日は棚卸実行日 (4 月 2 日) から変更することができます。計上日以降の在庫数が変化するので注意して下さい。調整データ計上日を決算日以前にすることで、決算日の在庫数を変更することが可能です。



9　調整データの作成

操作確認メッセージが表示されます。[OK] をクリックします。

10　終了

差異が解消され「deiri 上の在庫数＝実棚数」となりました。最後に実棚数をクリアするメッセージが表示されるので、[OK] をクリックして下さい。

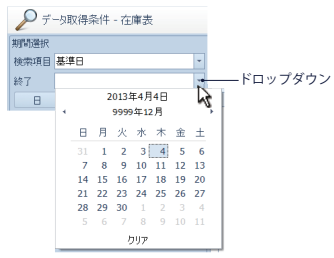
5-2-5.　　修正

棚卸は決算日 (3 月 31 日) に実施して終了していますが、登録したログデータを deiri へ転送するのが 4 月 4 日になってしまいました。

1　決算日付の在庫表の呼び出し①

ハンディターミナルのログデータは決算日 (3 月 31 日) 付なので、deiri の方も 3 月 31 日時点の在庫表を開き、データの差異を確認しましょう。

在庫表のデータ取得条件で期間を決算日 (3 月 31 日) に指定します。「終了」のドロップダウンをクリックしてカレンダーを表示して下さい。



2　決算日付の在庫表の呼び出し②

カレンダーは「9999 年 12 月」になっています。これは普段、deiri に入力された全ての年月日のデータを在庫表に反映させるためです。

今回は決算日を指定したいので、カレンダー上部の現在日をクリックします。カレンダーが現在 2013年4月 になったら ◀ をクリックして (① 2013年4月) 前月にし、3 月 31 日を選択して下さい。

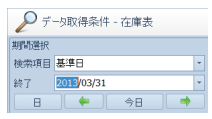
1.　9999 年 12 月のカレンダーです。「2013 年 4 月 4 日」をクリックします。

2.　2013 年 4 月のカレンダーになりました。「◀」をクリックします。

3.　2013 年 3 月のカレンダーになりました。「2013 年 3 月 31 日」をクリックします。

3　決算日付の在庫表の呼び出し③

「終了」に「2013/3/31」が入力され、日付の指定ができました。[OK] をクリックして在庫表を表示させて下さい。必要ならばその他の取得条件も設定して下さい。



4　データ転送

登録しておいたログデータを deiri へ転送します。

5　在庫表の更新

Deiri の在庫表を見て、実棚数フィールドにハンディターミナルで登録した数量が反映されていることを確認して下さい。

すでに在庫表を開いていた場合は最新の状態に更新して下さい。更新方法は、編集タブを選択して [最新の状態に更新] ボタンをクリックします。

6　差異の確認

deiri 上の在庫数と、ハンディターミナルで登録してきた実棚数の差異を確認して下さい。

deiri 上の在庫数＝実棚数　→　**7**　へ
deiri 上の在庫数≠実棚数　→　**8**　へ

7　終了

実棚クリアをして棚卸は終了です。

8　調査

deiri 上の在庫数とハンディターミナルで登録してきた実棚数が異なるときは、棚卸漏れや、過去の取引データに誤りがある可能性があります。調査して下さい。

棚卸漏れがあったときは、改めてハンディターミナルで足りない分だけ数量を入力すると、実棚数を追加できます。過去の取引データに誤りがあったときは、過去の入出荷データの誤っている箇所を修正して下さい。

調査の結果、

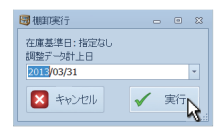
deiri 上の在庫数＝実棚数　→　**7**　へ
deiri 上の在庫数≠実棚数　→　**9**　へ

7　棚卸実行

調査の結果、在庫数と実棚数との差異が解消できないときは、在庫数を強制的に実棚数で置き換えます。[棚卸実行] ボタンをクリックして下さい。

8　調整データの計上

調整データ計上日の入力ダイアログが表示されます。計上日は棚卸実行日 (3 月 31 日) から変更することができます。計上日以降の在庫数が変化するので注意して下さい。調整データ計上日を決算日以前にすることで、決算日の在庫数を変更することが可能です。



9　調整データの作成

操作確認メッセージが表示されます。[OK] をクリックします。

10　終了

差異が解消され「deiri 上の在庫数＝実棚数」となりました。最後に実棚数をクリアするメッセージが表示されるので、[OK] をクリックして下さい。

第６章　インポート･エクスポート

6-1.　外部データのインポート

6-1-1.　　インポートとは

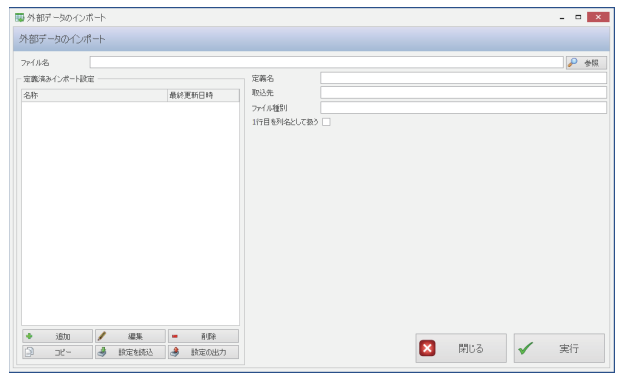
外部データを deiri 内の特定の項目に取り込むことができます。それを外部データのインポートと呼びます。インポートを始めるには、まずウィンドウを開きましょう。

1　データメニューの表示

データタブをクリックしてメニューを表示したら、インポートボタンをクリックします。

2　ウィンドウの呼び出し

外部データのインポートウィンドウが開きました。ここからインポートに関する様々な操作を行います。



Point

定義済みインポート設定編集ボタン

定義済みインポート設定の下部にあるボタンです。以下の操作を行います。

追加　追加	インポート定義を新規作成します。
編集　編集	既存のインポート定義を編集します。編集したいインポート定義を選択してから編集 編集 をクリックして下さい。
削除　削除	既存のインポート定義を削除します。削除したいインポート定義を選択してから削除 削除 をクリックして下さい。
コピー　コピー	既存のインポート定義をコピーし、新たに定義を作成します。 コピーしたいインポート定義を選択してからコピー コピー をクリックし、新しい定義名を入力して下さい。
設定の出力　設定の出力	インポート定義を別のデータベースに移すために、設定情報をファイルに出力します。出力 設定の出力 クリック後に、ファイル名や出力場所を指定して保存して下さい。
設定の読込　設定を読込	ファイルに出力された設定情報を読み込みます。読込 設定を読込 クリック後に、読み込みたいファイル名を指定して開いて下さい。

6-1-2.　インポート定義の作成

外部データのインポート実行前に、どのような設定に基づいてインポートするかをはっきりと定めることが大事です。それをインポート定義の設定といいます。外部データのインポート定義設定はインポート実行動作に反映されるので、1 つ 1 つ設定していきましょう。

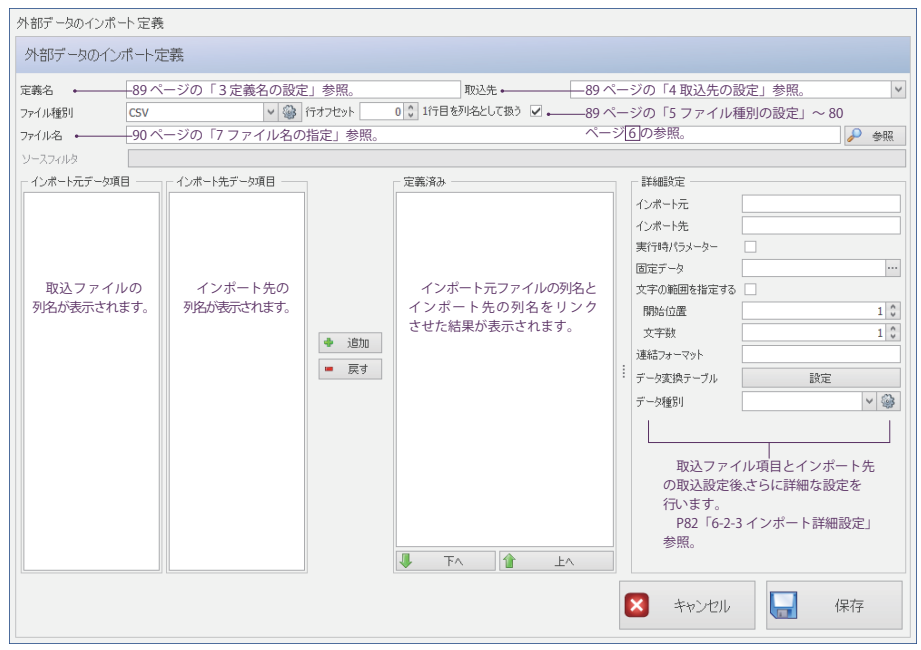
1　インポート定義ウィンドウの呼び出し

追加 追加 をクリックして、外部データのインポート定義ウィンドウを表示しましょう。

既存のインポート定義を編集するときは、編集したいインポート定義を選択してから編集 編集 をクリックして下さい。

2　外部データのインポート定義ウィンドウの表示

外部データのインポート定義ウィンドウが開きました。



3　定義名の設定

任意の定義名を入力します。取り込むデータによって定義が異なってくるので、具体的な名前を付けましょう。悪い例は「定義 1」や「データ 1」など、設定内容が分からない名前です。全ての設定を終えたとき、定義名は定義済みインポート設定に表示されます。

4　取込先の設定

外部データをどのテーブルに取り込むか選択します。プルダウン をクリックして、目的の取込先を選択しましょう。

5　ファイル種別の設定

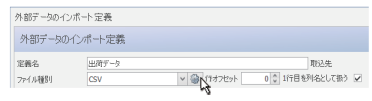
プルダウン をクリックして、取込ファイルの形式を CSV と Excel から選択します。

Point

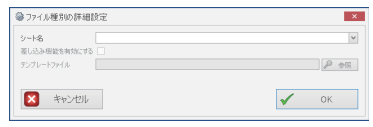
取込ファイル形式が Excel のときの詳細設定

シート別にデータを管理しているとき、シートを指定して取り込むことができます。

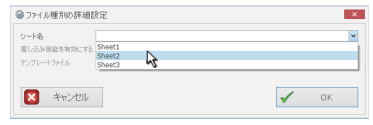
① プルダウン横にある をクリックします。



② ファイル種別の詳細設定というウィンドウが開きます。



③ プルダウンをクリックしてシートを選択し、OK をクリックして下さい。



6　行オフセットの設定

外部ファイルの取込開始の行位置を調整します。

右図のように 1 行目に列名、2 行目以降に数値を入れて管理している場合は、「1 行目を列名として扱う」に ☑ し、行オフセットを「0」にして下さい。

	A	B	C	D	E	F
1	色	サイズ	商品名	種別	メーカー名	価格
2	白	3L	Tシャツ	キッズ	(株)アサクル	5000
3	紫	M	コート	男女共用	(株)大正	2000
4	紫	S	ポロシャツ	キッズ	(株)有印	3000
5	紫	SS	ポロシャツ	メンズ	(株)アサクル	2000

Point　その他の行オフセット

以下を参考に行オフセットを設定して下さい。

① 使用したい列名が 3 行目にあるとき
　行オフセット　2
　1 行目を列名として扱う　☑

	A	B	C	D	E	F	G	H
1	東京倉庫							
2	A-1				A-2			
3	色	サイズ	商品名	価格	色	サイズ	商品名	価格
4	白	3L	Tシャツ	5000	赤	フリー	コート	3000
5	紫	M	コート	2000	黄	フリー	ジャケット	10000
6	紫	S	ポロシャツ	3000	赤	3L	ジャケット	3000
7	紫	SS	ポロシャツ	2000	紫	SS	Tシャツ	1000

② 列名がないとき (図 1)
　行オフセット　0
　1 行目を列名として扱う　☐

※インポート元データ項目に仮の列名が表示されます。(図 2)

図 1

	A	B	C	D	E	F
1	白	3L	Tシャツ	キッズ	(株)アサクル	5000
2	紫	M	コート	男女共用	(株)大正	2000
3	紫	S	ポロシャツ	キッズ	(株)有印	3000

図 2

7　ファイル名の指定

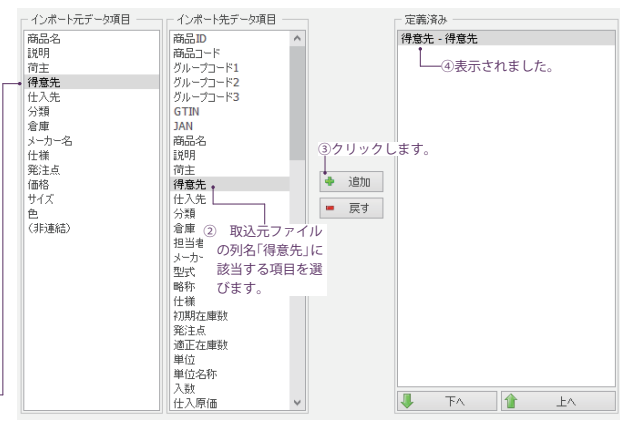
参照 参照 をクリックして、インポート対象のファイル名を指定します。

8　項目の紐づけ

① インポート元データ項目から取り込みたい列名をクリックします。
② インポート先項目を選びます。
③ 選択が終わったら追加 追加 をクリックします。
④ 定義済みに表示されれば完了です。

右図でインポート元ファイルの「得意先」データは、インポート先の「得意先」項目に取り込まれることになります。

定義済み項目を選択した状態で 上へ ボタン、 下へ ボタンをクリックすると、連結した項目を取り込む順序を変更できます。

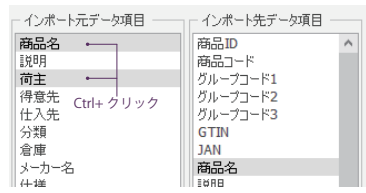


Point

複数項目選択と戻し方

インポート元データ項目の複数選択ができます。

① インポート元データ項目を Ctrl を押しながら複数選択します。次にインポート先データ項目を選択し、追加 追加 をクリックします。定義済みのスペースに [商品名 , 荷主]-商品名と表示されたら終了です。



定義付けの項目を戻すこともできます。

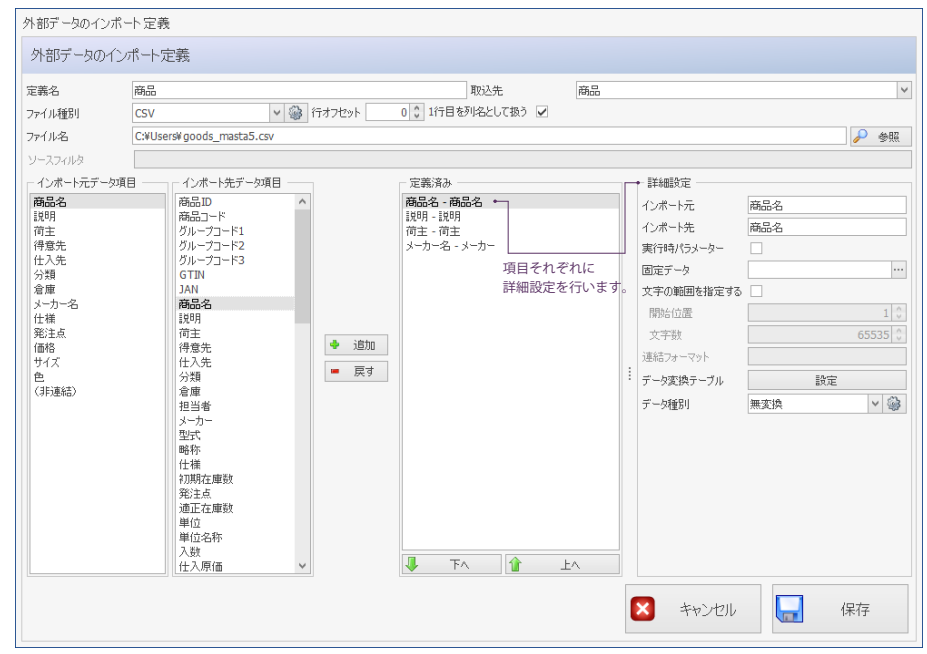
① 定義済みスペースから戻したい項目を選択し、戻す 戻す をクリックします。

9　詳細設定へ

インポート定義作成の半分が終わりました。引き続き詳細設定を行います。

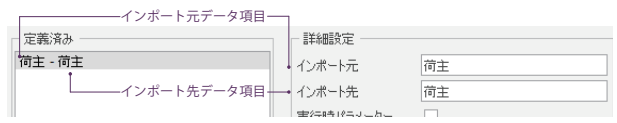
6-1-3.　インポート詳細設定

紐づけした各項目に対して詳細設定を行います。任意の定義済み項目を選んで下さい。



1　インポート元・インポート先

定義済み項目で選択した項目名が表示されます。



2　実行時パラメーターの設定

インポート元データにない項目にデータを入力したいときに ☑ します。毎回、インポートの度に内容が変わるような項目に用います。インポート元データ項目は＜非連結＞になります。

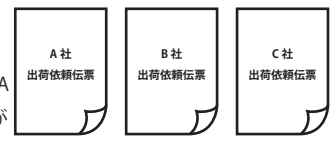
以下の Point を参考に、御社にあった設定を行ってください。

Point

実行時パラメーターの設定方法

A 社から自社に出荷依頼伝票が届きました。

この伝票データを deiri にインポートします。しかし伝票は A 社の他にもたくさんあるので、このままでは A 社の出荷依頼伝票データと他社の出荷依頼伝票データが混ざる恐れがあります。



インポート時に「荷主」項目に「A 社」と入力し、他社との区別させたいと思います。

① インポート元データ項目から＜非連結＞を、インポート先データ項目からは「荷主」を選択して追加 追加 をクリックして下さい。

② 目的の定義済み項目をクリックします。詳細設定に表示されました。

③ 実行時パラメータに ☑ し、他の設定を全て終えたら保存 保存 をクリックします。

④ A 社の出荷依頼伝票をインポートします。実行 実行 をクリックして下さい。

⑤ ウィンドウが開き、荷主を聞かれるので「A 社」を選択し、OK OK をクリックします。

⑥ インポート実行後、伝票マスタの「荷主」項目に「A 社」と入っているか確認して終了です。

3　固定データの設定

インポート元データにない項目に、固定化したデータを入力したいときに使います。インポート元データ項目は＜非連結＞になります。以下の Point を参考に、御社にあった設定を行ってください。

Point

固定データの設定方法

商品の原価が 300 円と決まっているので、データをインポートする度に「原価」項目に「300」と自動で入ってほしいと思います。

① インポート元データ項目から＜非連結＞を、インポート先データ項目からは「原単価」を選択して追加 追加 をクリックして下さい。

② 目的の定義済み項目をクリックします。詳細設定に表示されました。

③ 固定データ欄右端の ··· をクリックします。固定データの編集ウィンドウが開くので「300」と入力し、実行 実行 をクリックします。他の設定を全て終えたら保存 保存 をクリックします。

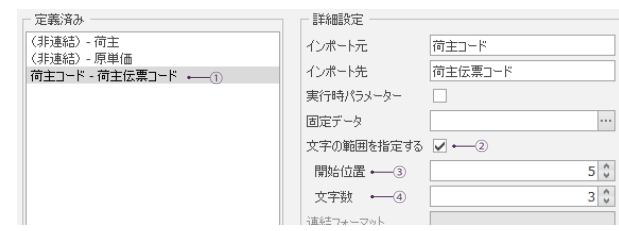
④ インポート実行後、「原単価」項目に「300」と入っているか確認して終了です。

4　文字範囲の指定

インポート元データ項目に取り込む必要のない文字列があるとき、文字の範囲を指定する ☑ に ☑ を入れてから文字の切り出し設定を行います。

右図は荷主コードが「0000123」で、インポートの際に右から 3 桁の「123」だけを切り出したいときの設定です。

① 目的の項目をクリックします。
② ☑ します。
③ 左から 5 桁目をインポート開始位置にします。
④ 文字数は 3 文字なので「3」と指定します。



5　連結フォーマットの設定

インポート元データ項目を複数選択し、１つのインポート先データ項目に紐づけさせることがあります (91 ページの「複数項目選択と戻し方」)。そのときの書式を指定します。

Point

連結データの書式

サイズと色を連結し、インポート先の「説明」項目と紐づけしました。書式設定します。

［サイズ , 色］- 説明

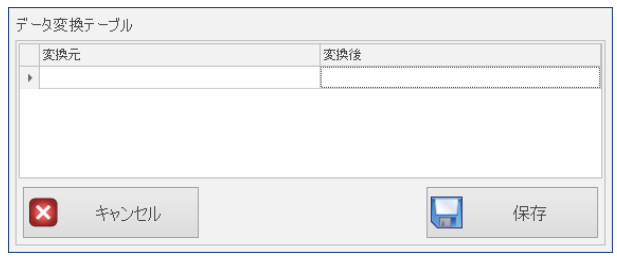
サイズを {0}、色を {1} と表します。［サイズ , 色 , 素材］など 3 連結になったときはサイズを {0}、色を {1}、素材を {2} と表します。

書式	表示
連結フォーマット {0}と{1}	説明 幅25mmと透明
連結フォーマット {0}/{1}	説明 幅25mm/透明

6　データ変換テーブルの設定

同じ商品でも、データを送ってきた相手先と自社で呼び方が違う商品があります。その変換を行うのがデータ変換です。設定［設定］をクリックするとデータ変換テーブルウィンドウが開くので、名称を変換しましょう。

変換元にインポート元データの呼称を、変換後に自社での呼称を入力し、保存［保存］をクリックします。



7　データ種別の設定

インポート元項目の ID を特定させインポートを行うときの設定です。以下の例を参考に設定を進めてください。ただし、インポート元項目のデータタイプが整数リスト型（96 ページの「データタイプ」参照）以外のとき、データ種別設定の必要はありません。

インポート元項目「JAN コード」または「商品コード」と、インポート先項目「商品」を紐づけて、データをインポートします。

※「商品」に任意の ID が入るとマスタと連動して、商品コード・摘要 1・摘要 2・単価・原単価・上代単価・税込単価にデータが自動入力されます。したがって、インポート元データ項目「商品コード」とインポート先データ項目「商品コード」を紐づけることはありません。

① インポート先項目のデータタイプを確認します。

deiri の扱うデータはあらかじめ数種類に分類されており、それぞれ特性や範囲、扱い方、表記が決められています。その中に整数リスト型というものがあり、これはマスタデータと連結しているデータタイプです。整数リスト型項目にデータをインポートする場合、インポート元項目を ID に変換する必要があります。

Point

データタイプ

deiri での代表的なデータタイプです。

- 整数リスト型：ドロップダウンリスト から任意の項目を選択します。リストのデータはマスタデータと連結しています。
- 実　数　型　：小数点なども含んだ数値 (金額や数量) を扱う項目に適応します。
- 整　数　型　：ID を扱います。
- 文　字　型　：コードや日本語や英語など、文字全般を扱います。
- 日　付　型　：年月日を表示します。
- O n / O f f　：Yes か No か。またはチェックを付けるか否かなどを入力します。

各取込先にある整数リスト型項目を以下の表にまとめました。項目がどのマスタに連結しているかも確認して下さい。

データタイプ　整数 (リスト) 型項目の連結先

取込先	項目名	連結マスタ名
ログイン	荷主	取引先
	最終更新者、作成者※ 1	ログイン
名称	最終更新者、作成者	ログイン

分類	荷主	取引先
	最終更新者、作成者	ログイン
倉庫	荷主	取引先
	最終更新者、作成者	ログイン
取引先	荷主、親取引先 ID	取引先
	締日、宅配便業者、運送料金区分、クール・着払等、時間指定、消費税区分、消費税丸め区分、単価丸め区分、金額丸め区分、入金方法、入金月、入金日、支払方法、支払月、支払日	名称
	担当者、最終更新者、作成者	ログイン
部門	荷主、取引先	取引先
	最終更新者、作成者	ログイン
商品	荷主、得意先、仕入先	取引先
	分類	分類
	単位、運送区分、毒劇管理区分、温度差管理区分、在庫管理区分、期限管理区分、入庫日管理区分、ロット管理区分、箱 No 管理区分、シリアル管理区分、追加項目管理区分 1、追加項目管理区分 2、追加項目管理区分 3、在庫ステータス管理区分	名称
	倉庫	倉庫
	担当者、最終更新者、作成者	ログイン
価格	荷主、取引先	取引先
	部門	部門
	倉庫	倉庫
	分類	分類
	商品	商品
	最終更新者、作成者	ログイン
組替	荷主	取引先
	組替元、組替先	商品
	最終更新者、作成者	ログイン
伝票	伝票区分	伝票区分
	荷主、得意先、仕入先、出荷先、配送先、請求先	取引先
	倉庫	倉庫
	担当者 1、担当者 2、担当者 3、最終更新者、作成者	ログイン
	部門	部門
	明細区分、単位、取引ステータス、理由、在庫ステータス、消費税区分、決済方法、宅配便業者、運送料金区分、運送注意事項、クール・着払等、時間指定、入力種別	名称
	商品	商品

※ 1　ログイン時のログイン名が自動付与されます。

②　インポート先項目のデータタイプが整数リスト型のとき、そこに ID を直接インポートするか (インポート元データに ID がある場合)、データ種別設定により特定した ID をインポートするかを判断します。

Point

deiri と ID

deiri には様々なデータが保存されています。その中で deiri の基本となるのが ID です。

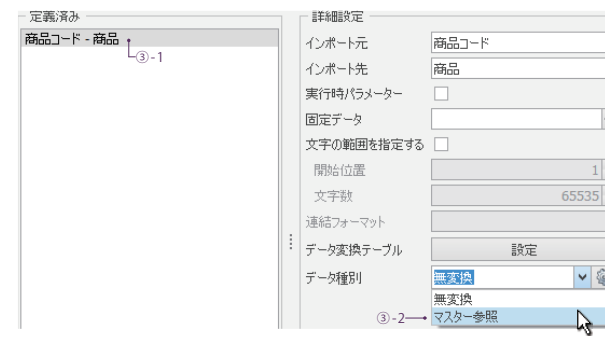
ID は 1 つのデータに対して 1 つ、deiri が自動付与しています。私たちが勝手に変更したり、重複させたり、削除することはできません。

deiri は ID に基づき、在庫の増減、伝票の作成を行っています。各マスタにコードを登録しますが、コードは変更したり重複したりすることがあるので、データ管理のキーにすることはできません。

③　例題の出荷依頼伝票に商品 ID がないので、「商品コード」か「JAN」コード」で ID を特定します。「商品コード」による ID 検索ならば、設定はここで終了です。

③ -1　定義済み項目をクリックします。

③ -2 「マスター参照」をクリックして終了です。



④「JAN コード」での検索は次のように行います。

④ -1　定義済み項目をクリックします。詳細設定に表示されました。

④ -2　ドロップダウンからマスタ検索を選択したら、鍵マーク をクリックします。

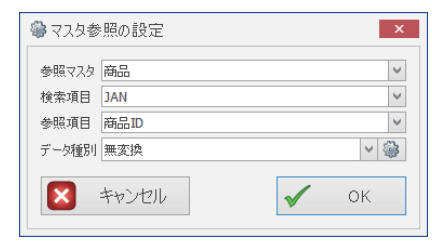
④ -3　マスタ参照の設定ウィンドウが開きました。

参照マスタ : 選択している整数リスト型項目の連結先マスタ名。

検 索 項 目 : 検索に用いる項目名。

参 照 項 目 : 特定したい項目名。

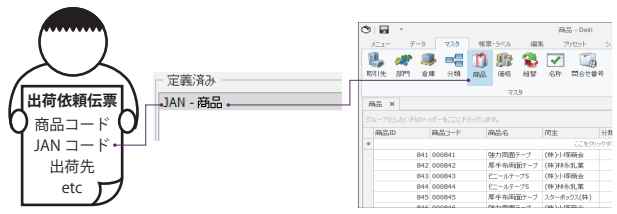
データ種別 : 多重検索に用いますが、ほとんど使用しません。



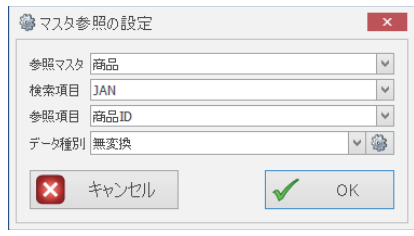
④ -4　設定をすべて終えたら OK をクリックします。

⑤ 「商品コード」や「JAN コード」が ID を特定する仕組みは、以下のようになっています。仕組みを知ると④ -3 の設定などの役に立つので参考にして下さい。

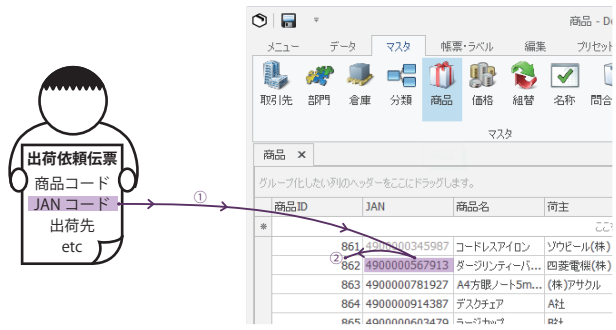
⑤ -1　定義済み項目の連結場所を確認します。
　インポート元項目「JAN」は出荷依頼伝票の「JAN コード」と、インポート先項目「商品」は deiri の「商品マスタ」と連結しています。



⑤ -2　マスタ参照の設定をします。
　インポート元項目「JAN」と商品マスタ内の JAN コードを一致させ、商品 ID を特定させます。



⑤ -3　OK をクリックするとdeiri は、出荷依頼伝票の「JAN コード」と一致する JAN コードを、deiri の商品マスタ内で探し始めます (①)。一致するものがあると、そこから「商品 ID」を特定します (②)。
　そして整数リスト型のインポート先項目へ「商品 ID」を受け渡して終了です。



8 保存

すべての設定を終えたら保存をクリックして詳細設定を終え、外部データのインポートウィンドウへ戻ります。

6-1-4.　インポート実行

インポートを行う定義を選択します。必要ならば定義済みインポート設定において定義の追加、削除、コピー、編集、読込、出力なども行います。終わったらいよいよインポートです。

1　ファイル名を選択

参照 参照 をクリックして、インポート対象のファイル名を選択します。90 ページの「7　ファイル名の指定」と同じファイル名のときは変更いりません。

2　定義の選択

定義済みインポート設定から任意の設定を選択します。

3　実行

外部データのインポートウィンドウの実行ボタン ✓ 実行 をクリックします。

4　終了

取込先にデータがインポートされているのを確認し、終了です。

6-2.　deiri データのエクスポート

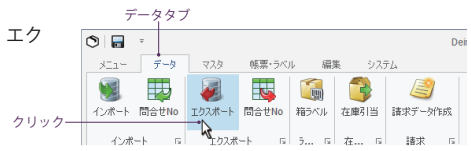
6-2-1.　エクスポートとは

deiri 内のデータは別な外部ソフトに流し込むことができ、それをデータのエクスポートといいます。エクスポートできる外部ソフトは幅広く、Excel から他社の在庫管理ソフト、会計管理、販売管理など多岐に渡ります。

エクスポートを始めるには、まずウィンドウを開きましょう。

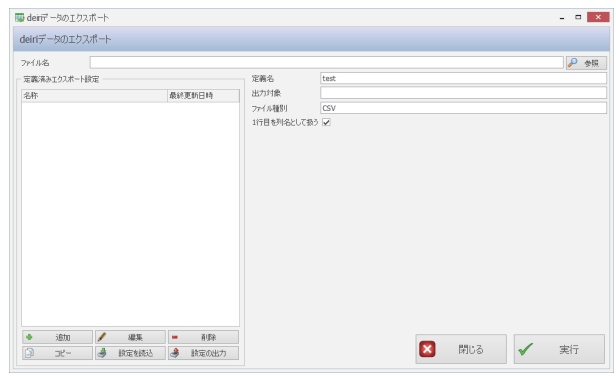
1　データメニューの表示

データタブをクリックしてメニューを表示したら、エクスポートボタンをクリックします。



2　ウィンドウの呼び出し

deiri データのエクスポートウィンドウが開きました。ここからエクスポートに関する様々な操作を行います。



Point

定義済みエクスポート設定編集ボタン

定義済みインポート設定の下部にあるボタンです。以下の操作を行います。

追加　追加	エクスポート定義を新規作成します。
編集　編集	既存のエクスポート定義を編集します。編集したいエクスポート定義を選択してから編集 編集 をクリックして下さい。
削除　削除	既存のエクスポート定義を削除します。削除したいエクスポート定義を選択してから削除 削除 をクリックして下さい。
コピー　コピー	既存のエクスポート定義をコピーし、新たに定義を作成します。コピーしたいエクスポート定義を選択してからコピー コピー をクリックし、新しい定義名を入力して下さい。
設定の出力　設定の出力	エクスポート定義を別のデータベースに移すために、設定情報をファイルに出力します。出力 設定の出力 クリック後に、ファイル名や出力場所を指定して保存して下さい。
設定の読込　設定を読込	ファイルに出力された設定情報を読み込みます。読込 設定を読込 クリック後に、読み込みたいファイル名を指定して開いて下さい。

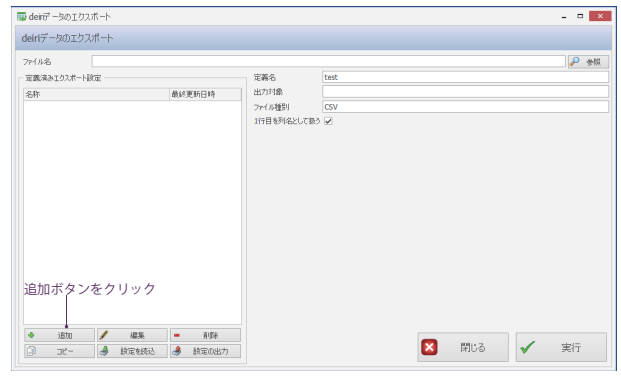
6-2-2.　エクスポート定義の設定

deiri データをエクスポートする前に、どのような設定に基づいてエクスポートするかをはっきりと定めることが大事です。それをエクスポート定義の設定といいます。エクスポート定義設定はエクスポート実行動作に反映されるので、1つ1つ設定していきましょう。

1　エクスポート定義ウィンドウの呼び出し

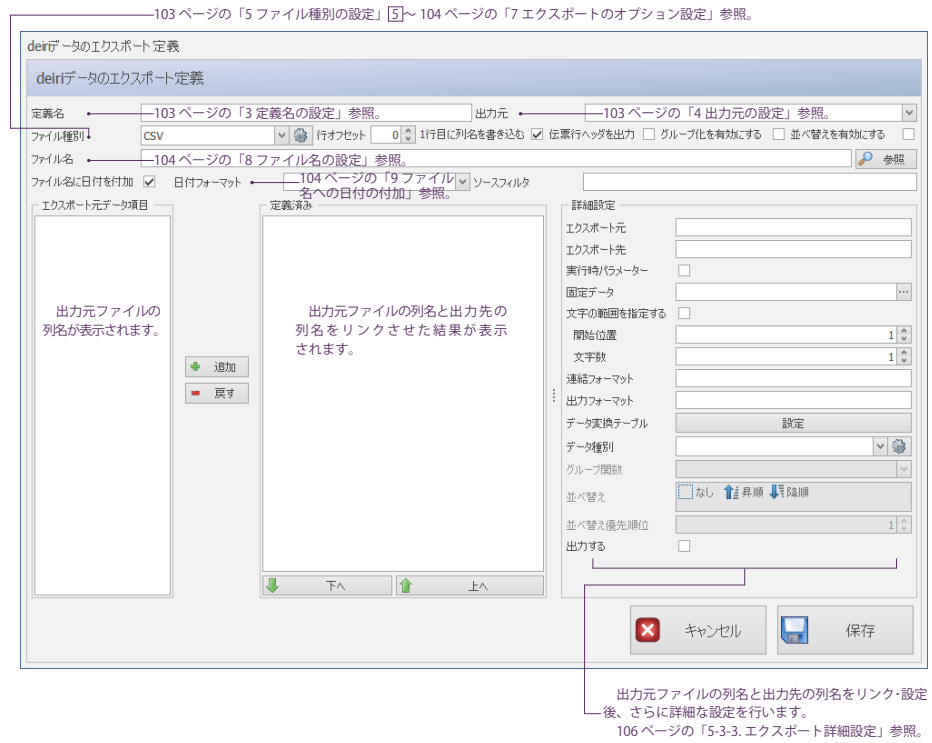
追加 追加 をクリックして、deiri データのインポート定義ウィンドウを表示しましょう。

既存のエクスポート定義を編集するときは、編集したいエクスポート定義を選択してから編集 編集 をクリックして下さい。



2　deiri データのエクスポート定義ウィンドウの表示

deiri データのエクスポート定義ウィンドウが開きました。



3　定義名の設定

任意の定義名を入力します。出力するデータによって定義が異なってくるので、具体的な名前を付けましょう。悪い例は「定義 1」や「データ 1」など、設定内容が分からない名前です。全ての設定を終えたとき、定義名は定義済みインポート設定に表示されます。

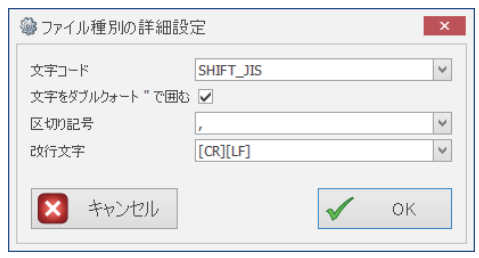
4　出力元の設定

どのテーブルの deiri データを出力するか選択します。プルダウン をクリックして、目的のテーブル名を選択しましょう。

5　ファイル種別の設定

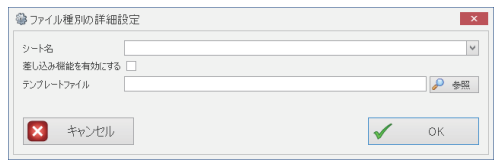
プルダウン をクリックして、出力ファイルの形式を CSV と Excel から選択します。

① CSV 選択時。プルダウン横の鍵マーク をクリックすると詳細設定画面が開きます。必要ならば詳細設定を行い、終わったら OK をクリックして下さい。



文字コード：出力ファイルの文字コードを変更。一般的には SHIFT JIF が用いられる。
文字を～区別：文字列項目を「" "」で囲んで出力。
区切り記号：項目の区切りに用いる記号の設定。
改行文字：改行文字の設定。一般的には [CR]、[LF] が用いられる。

② Excel を選択時。プルダウン横の鍵マーク をクリックすると詳細設定画面が開きます。必要ならば詳細設定を行い、終わったら OK をクリックして下さい。



シート名：テンプレートとなる Excel ファイルのシート名を指定。
差し込み機能を有効にする：シート名を指定してデータ出力するときは、必ず ☑ する。
テンプレートファイル：テンプレートファイルを指定します。参照 をクリックして選択してください。

※　テンプレートファイルにはデータを直接エクスポートしません。必ず deiri がテンプレートファイルを自動的にコピーし、コピーしたファイルにエクスポートします。

6　行オフセットの設定

エクスポート先の出力行オフセットを設定します。指定した行数分の空行が発生します。

右図のように 1 行目に列名があり、2 行目以降にデータをエクスポートしたい場合は、行オフセットを「1」に設定して下さい。

	A	B	C	D	E	F
1	色	サイズ	商品名	種別	メーカー名	価格
2	白	3L	Tシャツ	キッズ	(株)アサクル	5000
3	紫	M	コート	男女共用	(株)大正	2000
4	紫	S	ポロシャツ	キッズ	(株)有印	3000
5	紫	SS	ポロシャツ	メンズ	(株)アサクル	2000

7　エクスポートのオプション設定

オプション「1行目に列名を書き込む ☐ 伝票行ヘッダを出力 ☐ グループ化を有効にする ☐ 並べ替えを有効にする ☐」を設定します。オプションを使用するときは ☑ を入れ、エクスポート先でのデータの表示方法を決定します。

オプション名	エクスポート後の動作
1行目に列名を書き込む ☑	定義済み項目をエクスポート先ファイルの 1 行目に表示。
伝票行ヘッダを出力 ☑	伝票の鏡部分のデータをエクスポート。
グループ化を有効にする ☑	詳細設定において「グループ関数」を有効にする。109 ページ参照。
並べ替えを有効にする ☑	詳細設定において「並べ替え」を有効にする。112 ページ参照。

8　ファイル名の設定

出力先ファイル名を設定します。参照 参照 をクリックし、エクスポート先のファイルを指定します。出力先ファイルは実行時にまた変更できます。

9　ファイル名への日付の付加

エクスポートしたファイルを上書きせずに保存できる機能です。使用の際は ☑ を入れてください。フォーマットは日付フォーマットのプルダウン から変更できます。

10　項目の紐づけ

①　エクスポート元データ項目から出力したい列名をクリックします。

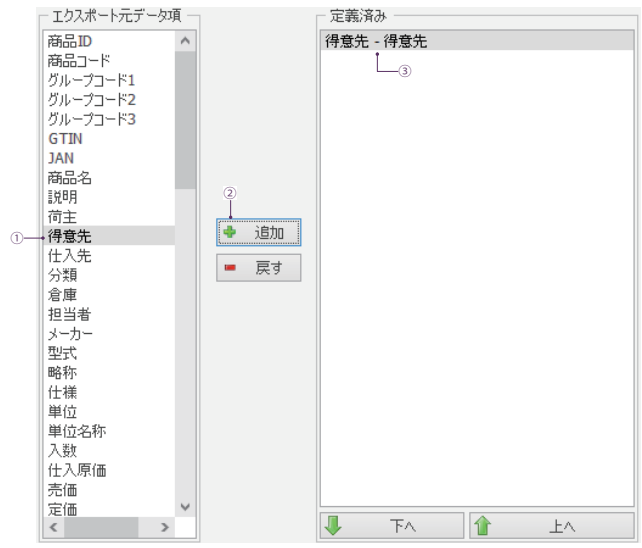
②　選択が終わったら追加 追加 をクリックします。

③　定義済みに表示されれば完了です。

右図のエクスポート元ファイルの「得意先」データは、エクスポート先の「得意先」項目に出力されます。エクスポート先項目名は詳細設定で変更できます (107 ページ参照)。

定義済み項目を選択した状態で 上へ ボタン、 下へ ボタンをクリックすると、連結した項目を出力する順序を変更できます。

項目の複数選択・戻し方の方法は 91 ページの「複数項目選択と戻し方」を参照して下さい。

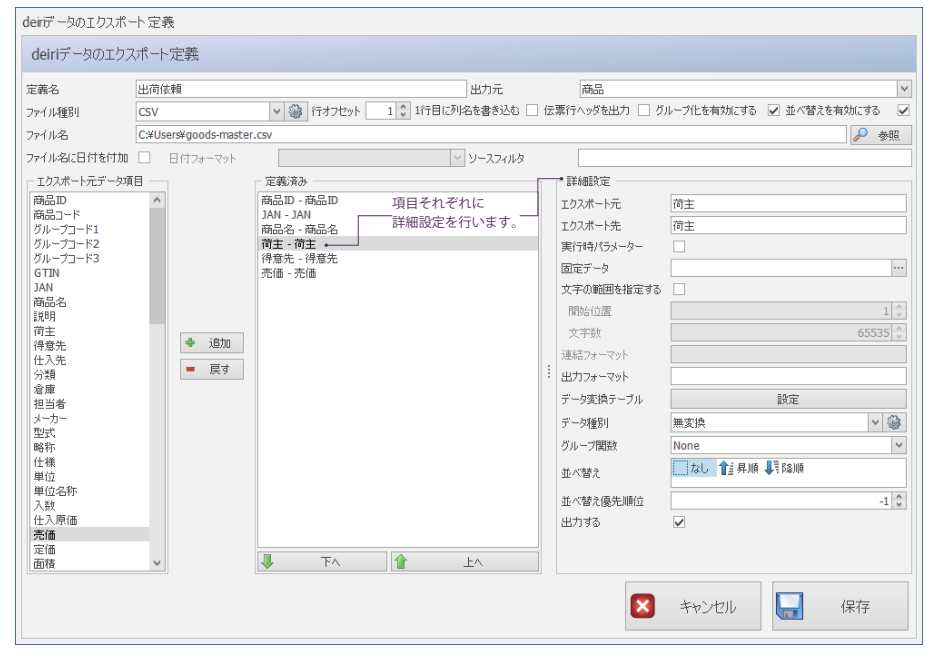


11　詳細設定へ

エクスポート定義作成の半分が終わりました。引き続き詳細設定を行います。

6-2-3.　エクスポート詳細設定

紐づけした各項目に対して詳細設定を行います。任意の定義済み項目を選んで下さい。



1　インポート元・インポート先

定義済み項目で選択した項目名が表示されます。

エクスポート先の項目名は変更可能なので、必要があれば変更して下さい。

2　実行時パラメーターの設定

エクスポート元データにない項目にデータを入力したいときに ☑ します。毎回、エクスポートの度に内容が変わるような項目に用います。エクスポート元データ項目は<非連結>になります。

考え方や入力方法は以下の Point を参考に、御社にあった設定を行ってください。

3　固定データの設定

エクスポート元データにない項目に、固定化したデータを入力したいときに使います。エクスポート元データ項目は<非連結>になります。以下の Point を参考に、御社にあった設定を行ってください。

Point

固定データの設定方法

商品の原価が 300 円と決まっているので、データをエクスポートする度に「原価」項目に「300」と自動で入ってほしいと思います。

①　エクスポート元データ項目最下段から<非連結>を選択して追加 追加 をクリックします。

②　目的の定義済み項目をクリックします。詳細設定に〈非連結〉-〈非連結〉と表示されました。

③　エクスポート先の項目名は〈非連結〉から別な名前に変更できます。必要ならば変更しましょう。

④　固定データ欄右端の ··· をクリックします。固定データの編集ウィンドウが開くので「300」と入力し、実行 実行 をクリックします。他の設定を全て終えたら保存 保存 をクリックします。

⑤　エクスポート実行後、「原単価」項目に「300」と入っているか確認して終了です。

4　文字範囲の指定

エクスポート元データ項目に取り込む必要のない文字列があるとき、文字の範囲を指定する ☑ に☑を入れてから切り出す文字数と開始位置を指定をします。

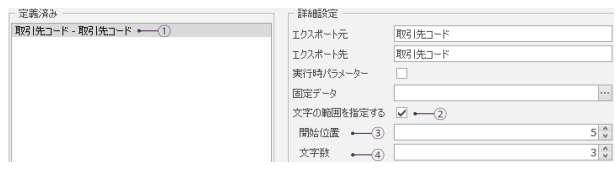
右図は取引先コードが「0000123」で、エクスポートの際に右から 3 桁の「123」だけを切り出したいときの設定です。

①　目的の項目をクリックします。

②　☑ します。

③　左から 5 桁目をエクスポート開始位置にします。

④　文字数は 3 文字なので「3」と指定します。



5　連結フォーマットの設定

エクスポート元データ項目を複数選択したときの書式を指定します。詳細はインポートと同じなので 95 ページの「5　連結フォーマットの設定」を参照して下さい。

6　出力フォーマットの設定

データをお好みの表示方法 (金額に「￥」や「,」を付けたり、日付を「/」で区切るなど) で出力するため、カスタム書式指定文字列を入力します。

Point

出力フォーマットの書式

使用頻度の高いカスタム書式指定文字列です。

書式	表示
yyyy/mm/dd	年月日を表示。例 .2015/01/31。
yy/m/d	年月日を表示。例 .15/1/31。
#,0	数値 3 桁ごとに「,」が付く。0 は表示される。
#,#	数値 3 桁ごとに「,」が付く。0 は表示されない。
.00	小数点第二位まで表示。小数点第一位までは「.0」。

7　データ変換テーブルの設定

エクスポート時に表示名を変えたい場合があります。その変換を行うのがデータ変換です。

設定 設定 をクリックするとデータ変換テーブルウィンドウが開くので、名称を変換しましょう。「変換元」にエクスポート元データの呼称を、「変換後」に表示させたい呼称を入力し、保存 保存 をクリックします。

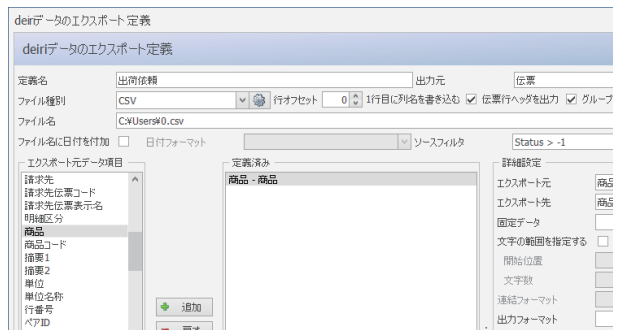
8　データ種別の設定

エクスポート元項目のデータタイプが整数リスト型のとき、リンクしているマスタ ID を基に、必要とするデータを検索・エクスポートできます。

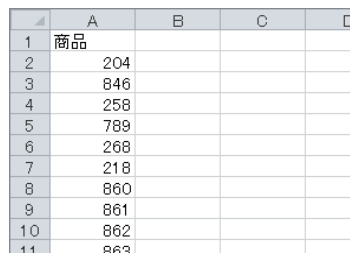
① 伝票をエクスポートします。

エクスポート元項目「商品」を選択しました。「商品」はデータタイプが整数リスト型で、商品マスタとリンクしています。

このままエクスポートを実行します (115 ページの「5-3-4. エクスポート実行」参照)。



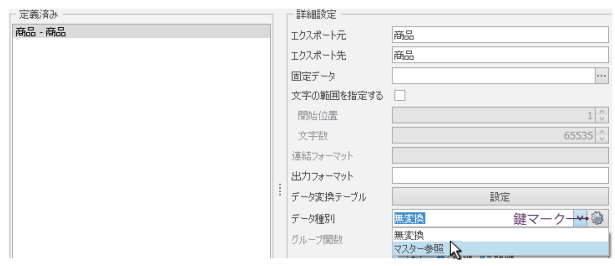
② エクスポートされました。「商品」は整数リスト型なので、商品 ID が表示されます。商品 ID のみのエクスポートが目的の場合、ここで終了です。



	A	B	C	D
1	商品			
2	204			
3	846			
4	258			
5	789			
6	268			
7	218			
8	860			
9	861			
10	862			
11	863			

③ 商品 ID を商品名に変換して、エクスポート後も見た目に分かりやすく表示させます。

インポート同様、データ種別からマスタ参照を選択し、その後、鍵マーク をクリックします。

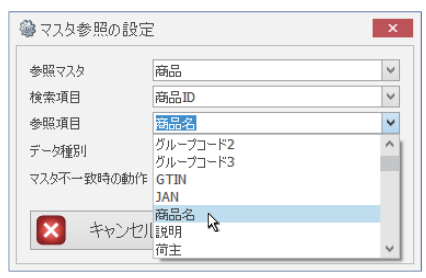


④ マスタ参照の設定ウィンドウが開きました。設定を終えたら OK をクリックします。

参照マスタ：選択している整数リスト型項目の連結先マスタ名。

検索項目：検索に用いる項目名。

参照項目：特定したい項目名。



⑤ エクスポートを実行します。

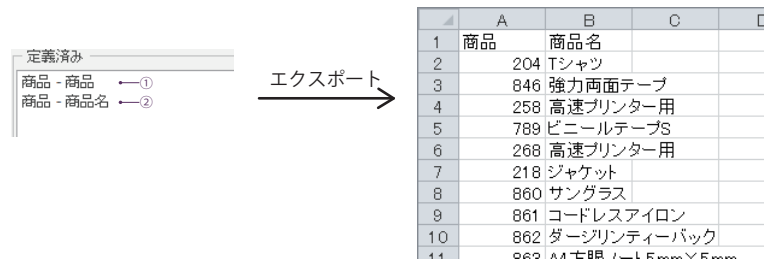
⑥　エクスポートが完了しました。表示が商品 ID から商品名に変わりました。

	A	B	C	D
1	商品			
2	Tシャツ			
3	強力両面テープ			
4	高速プリンター用			
5	ビニールテープS			
6	高速プリンター用			
7	ジャケット			
8	サングラス			
9	コードレスアイロン			
10	ダージリンティーバック			
11	A4方眼 ノート5mm×5mm			

Point

エクスポート元項目の重複選択

同一のエクスポート元項目を複数回、定義済みにすることができます。重複させることで、さまざまなテキストデザインに柔軟に対応できます。



	A	B	C	D
1	商品	商品名		
2	204	Tシャツ		
3	846	強力両面テープ		
4	258	高速プリンター用		
5	789	ビニールテープS		
6	268	高速プリンター用		
7	218	ジャケット		
8	860	サングラス		
9	861	コードレスアイロン		
10	862	ダージリンティーバック		
11	863	A4方眼 ノート5mm×5mm		

① 「データ種別」は「無変換」のまま。エクスポート後は商品 ID がそのまま表示される。
② 「データ種別」で「商品 ID」から「商品名」を検索。エクスポート後は商品名が表示される。
エクスポート先項目名は「商品」から「商品名」へ変更。

9　グループ関数の設定

出力データの集計や分析のために、データの集約 (グループ化) や合計平均の計算をすることができます。

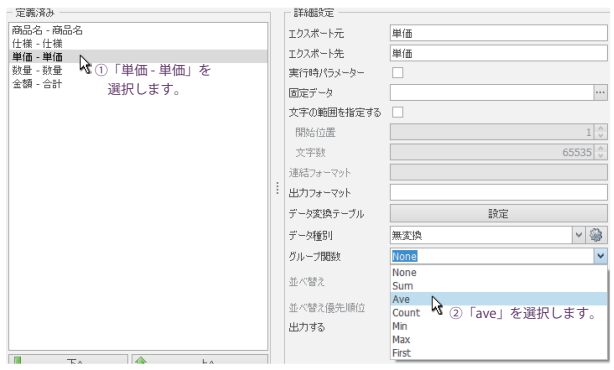
まずは104 ページの「7　エクスポートのオプション設定」の通り、グループ化に関するチェックボックスに☑(グループ化を有効にする ☑) します。するとグループ関数項目が利用可能になります。下記は使用例です。参考にして下さい。

① 右図データをエクスポートします。
グループ関数を用いて単価は平均、小計は合計を表示するように設定してエクスポートしようと思います。

商品名	仕様	単価	数量	金額
リンゴ	赤	98	5	490
リンゴ	青	128	7	896
みかん	S	30	15	450
みかん	M	48	20	960

② エクスポートのオプション設定のグループ化にチェックし (グループ化を有効にする ☑)、エクスポートする項目を定義済み項目欄へ追加 追加 します (右図)。

③ 「単価-単価」項目にはグループ関数「ave」を、「金額 - 合計」項目には「sum」を設定します。グループ関数 グループ関数 None の をクリックし、プルダウンリストから選択して下さい。



※「金額 - 合計」に対する「sum」設定も同様に行ってください。

Point　**グループ関数の種類**

関数名	
none	集計対象外項目をまとめる。ave・sum・min 以外は none。
sum	合計。売上合計や出荷合計数などに適用。
ave	平均。単価平均などに適用。
count	件数。行数や、商品を卸した会社数のカウントなどに適用。
min	1 番小さいもの (番号など) を表示。
max	1 番大きいもの (番号など) を表示。
first	登録されているデータで最初に見つかったものを表示。PC 次第で、何が選択されるか予知不可能。

④ その他の設定も全て終えたら 保存 をクリックし、エクスポートを実行 実行 します。

⑤ エクスポートの結果は右図のようになります。単価は平均値が、金額は合計額が表示されました。

	A	B	C
1	商品名	単価	合計
2	リンゴ	113	1386
3	みかん	39	1410

10　並べ替えの設定

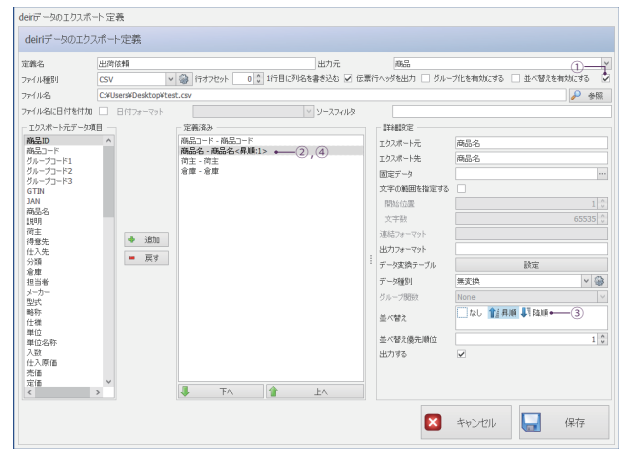
不規則に並んだ出力データを、数値順や五十音順に並べ替えることができます。

① エクスポートのオプション設定の並べ替えにチェックします (並べ替えを有効にする ☑)。

② 並べ替えを適用する項目を選択します。

③ 並べ替えを昇順で行うか、降順で行うか選択します。

④ 項目に < 昇順 1> と表示されました (降順を選択した場合は < 降順 1>)。



Point

昇順と降順

文字形式により昇順と降順が異なります。下図は昇順です。降順は下図と反対になります。

ひらがな･カタカナ 漢字	日付	アルファベット	数値
A 1 あんず 2 えび 3 かき 4 くり 5 すし 6 そらまめ	A 1 2011/6/14 2 2011/10/30 3 2012/5/31 4 2012/11/9 5 2013/2/8 6 2013/7/22	A 1 apricot 2 broad bean 3 chestnut 4 persimmon 5 shrimp 6 sushi	A 1 136 2 246 3 298 4 375 5 408 6 638
五十音順	過去→未来	abc → z 順	小さい数→ 大きい数順

グループ化と併用すると、グループ化した合計金額を大きい順に並べたり、売上高をグループ化＆並べ替えして「本日売上 TOP１０」を出したりできるので用途が広がります。

11　並べ替え優先順位の設定

複数の項目に並べ替えを適用するとき、どの項目から並べ替えをするか順番を決めることができます。

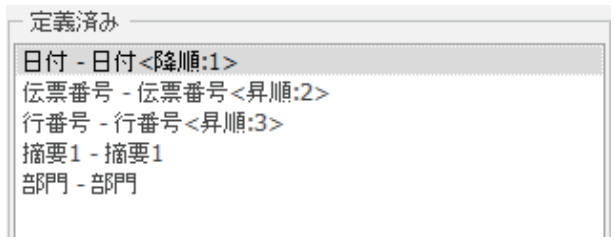
① 右図はエクスポートしたデータです。日付も伝票番号も、行番号も不規則に並んでいます。

	A	B	C	D	E
1	日付	伝票番号	行番号	摘要1	部門
2	2012/7/30 0:00	1	0	サポート出張代	1
3	2012/7/30 0:00	1	1	交通費	1
4	2014/1/28 0:00	3	0	サーバー	1
5	2014/1/28 0:00	3	1	ルーター	1
6	2014/1/28 0:00	3	2	デスクトップ・ノートPC	1
7	2013/3/15 0:00	2	0	送料	1
8	2013/3/15 0:00	2	1	プリンタ・スキャナ・複合機	1
9	2013/3/15 0:00	4	0	バックアップ作業費用	1
10	2013/3/15 0:00	4	1	交通費	1
11	2013/3/15 0:00	4	2	データ作成	1
12	2013/3/15 0:00	4	3	サーバ設定	1

② 定義済み項目に並び替えを適用していきます。

「10並び替えの設定」を参考に、日付は＜降順1＞、伝票番号は＜昇順2＞、行番号は＜昇順3＞に設定します。

優先順位を変更するときは、該当する定義済み項目を選択し、並べ替え優先順位 2 で調節して下さい。



③ 保存 保存 をして実行 実行 します。

④ 並び替わりました。

④-1　降順にしたので、未来→過去に並び変わりました。

④-2　日付の並べ替えの後、伝票番号が昇順で並び替えられました。「2013/3/15」の伝票番号は「2」と「4」の2種類あるので、同じ日付の中でも並び替えがなされてます。

④-3　伝票番号の並べ替えの後、行番号が昇順で並び替えられました。④-2と同様に、同じ日付の中でも並び替えがなされています。

	A	B	C	D	E
1	日付 ←④-1	伝票番号	行番号	摘要1	部門
2	2014/1/28 0:00	3	0	サーバー	1
3	2014/1/28 0:00	3	1	ルーター	1
4	2014/1/28 0:00	3	2	デスクトップ・ノートPC	1
5	2013/3/15 0:00	2	0	送料	1
6	2013/3/15 0:00	2	1	プリンタ・スキャナ・複合機	1
7	2013/3/15 0:00	4	0	バックアップ作業費用	1
8	2013/3/15 0:00	4	1	交通費	1
9	2013/3/15 0:00	4	2	データ作成	1
10	2013/3/15 0:00	4	3	サーバ設定	1
11	2012/7/30 0:00	1	0	サポート出張代	1
12	2012/7/30 0:00	1	1	交通費	1

④-2　④-3

12 出力の有無の設定

定義済み項目をエクスポートするか否かを決めます。

「部門」を出力しないとき、定義済み項目「部門」を選択し、出力する □の ☑ を外します。

その後、保存 保存 をして実行 ✓ 実行 をすると、部門が出力されずエクスポートされます (右図)。11の図と比べてみましょう。「部門」がなくなっているのが分かります。

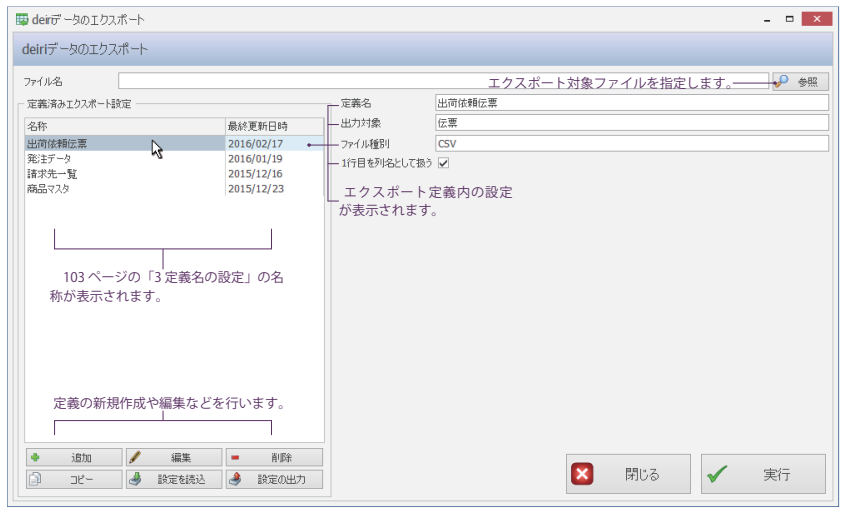
	A	B	C	D	E
1	日付	伝票番号	行番号	摘要1	
2	2014/1/28 0:00	3	0	サーバー	
3	2014/1/28 0:00	3	1	ルーター	
4	2014/1/28 0:00	3	2	デスクトップ・ノートPC	
5	2013/3/15 0:00	2	0	送料	
6	2013/3/15 0:00	2	1	プリンタ・スキャナ・複合機	
7	2013/3/15 0:00	4	0	バックアップ作業費用	
8	2013/3/15 0:00	4	1	交通費	
9	2013/3/15 0:00	4	2	データ作成	
10	2013/3/15 0:00	4	3	サーバ設定	
11	2012/7/30 0:00	1	0	サポート出張代	
12	2012/7/30 0:00	1	1	交通費	

13 保存

すべての設定を終えたら保存 保存 をクリックして詳細設定を終え、外部データのインポートウィンドウへ戻ります。

6-2-4.　エクスポート実行

エクスポートを行う定義を選択します。必要ならば定義済みエクスポート設定において定義の追加、削除、コピー、編集、読込、出力なども行います。終わったらいよいよエクスポートです。



1　ファイル名を選択

参照 参照 をクリックして、エクスポート対象のファイル名を選択します。104 ページの「8　ファイル名の設定」と同じファイル名の時は変更しません。

2　定義の選択

定義済みエクスポート設定から任意の設定を選択します。

3　実行

deiri データのエクスポートウィンドウの実行ボタン ✓ 実行 をクリックします。

4　データ取得条件の設定

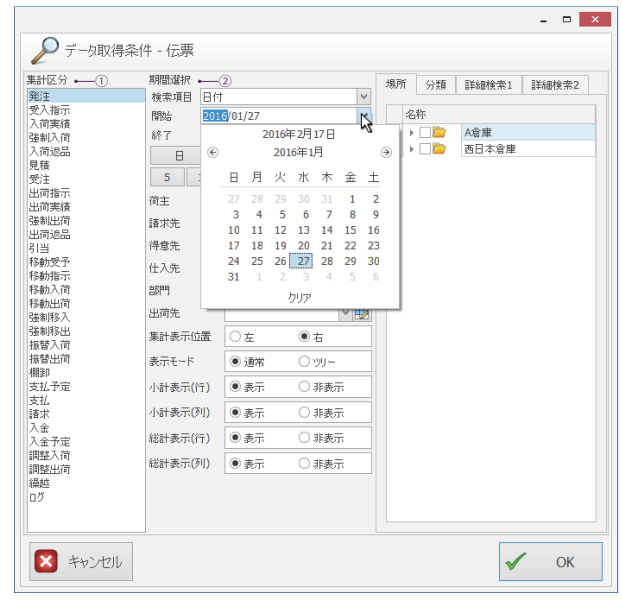
4　データ取得条件の設定

データ取得条件ウィンドウが開きました。

集計区分 (①) で、どの伝票区分をエクスポートしたいかをクリックで選択します。

期間選択 (②) はプルダウン からカレンダーを出し、「開始」と「終了」それぞれに日付を入れて下さい。

その他、設定が終わったら OK をクリックします。するとエクスポートが始まります。



Point　**集計区分の複数選択**

Shift を押しながらクリックすると、クリック開始位置からクリック終了位置までの全ての集計区分を選択することができます。

また、Ctrl を押しながらクリックすると、とびとびに集計区分を選択することができます。

5　終了

出力先にデータがエクスポートされているのを確認し、終了です。

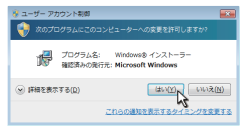
第 7 章 deiri ガイド

7-1.　インストールソフトウェア

7-1-1.　deiri セットアップ

1　CD-ROM のセット

deiri ソフトウェア CD-ROM をパソコンの CD ドライブへセットします。インストーラーが自動的に起動します。CD ドライブのオートランが無効になっているときは、CD-ROM 中の Setup.ex を実行して下さい。ユーザーアカウント制御の警告が表示される場合は [はい] を選択して下さい。



Point

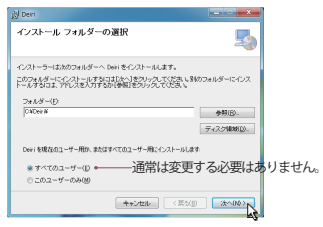
Microsoft .NET Framework 4.0

Microsoft .NET Framework 4.0 がインストールされているか自動的にチェックされます。未インストールであれば Microsoft .NET Framework 4.0 のインストーラーが先に起動します。

Microsoft .NET Framework 4.0 のインストールが完了すると、deiri 本体のインストーラーが起動します。

2　インストールフォルダの選択

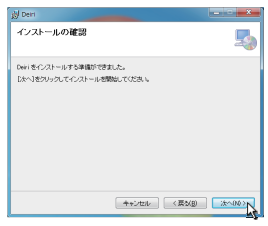
インストールディレクトリを設定します。初期値として C:¥deiri¥ が設定されています。通常はこのまま [次へ] ボタンで進みますが、インストール先を変更すると動作しないことがありますのでご注意下さい。



通常は変更する必要はありません。

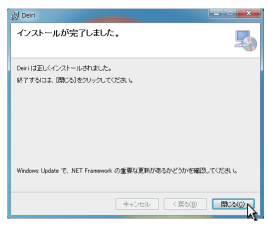
3　インストールの開始

[次へ] をクリックすると、インストールが始まります。



4　インストール完了

インストールが完了しました。[閉じる] ボタンで終了しましょう。



5　再起動

パソコンを再起動して、deiri を更新してください。

memo

7-2.　Deiri の更新

7-2-1.　インストール方法

deiri にはサポート期間中、プログラムを最新の状態に維持するための機能があります。通常自動的に更新されますが、deiri が起動中であった場合や即時更新したいときには、手動で更新することができます。手動で行うときは下記の手順に従ってプログラムを更新して下さい。

1　起動中の Deiri を終了

deiri 起動中はプログラムの更新ができません。必ず終了してから開始して下さい。

2　セキュリティキーを確認

セキュリティキーがパソコンに接続されているのを確認して下さい。

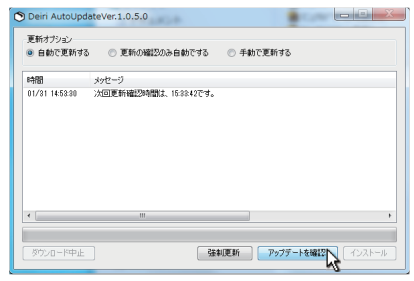
3　deiri AutoUpdate 画面の表示

デスクトップ画面右下のタスクバーアイコンをすべて表示して、deiri アイコンをダブルクリックします。

4　プログラムの更新確認

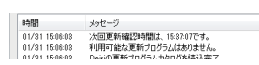
「アップデートを確認」ボタンをクリックして、利用できる更新プログラムがあるか確認します。更新オプションの「◉自動で更新する」は変更する必要ありません。

更新がないとき　→　5 へ
更新があるとき　→　6 7 へ



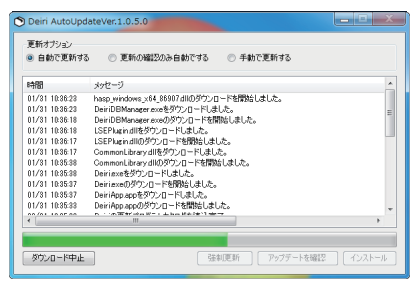
5　終了

プログラムは最新の状態なので更新の必要はありません。deiri AoutoUpdate を閉じて下さい。



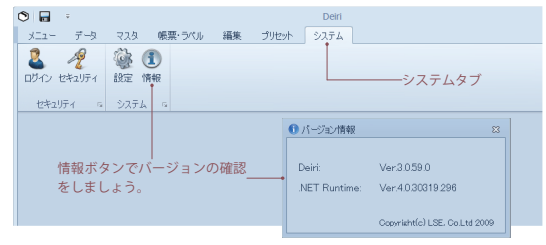
6　プログラムのダウンロード

利用可能な更新プログラムがあるとき、自動的にプログラムファイルをダウンロードします。ダウンロードが終了すると、プログラムファイルが更新されます。



7　バージョンを確認

正常に更新されたかどうかを確かめるには、deiri を起動し、システムタブを選択します。情報ボタンをクリックしてバージョン No が変更されていれば更新完了です。



7-2-2.　サーバー接続設定

データベースサーバーへの初期接続設定を行います。

1　セキュリティキーを確認

セキュリティキーがパソコンに接続されているのを確認して下さい。

2　サーバー接続設定画面の表示

初回起動時、サーバーの接続設定画面が表示されます。

表示されないときはパソコンのキーボードの [ctrl]+ [Shift] 同時押しで、デイリを起動して下さい。設定画面を強制的に表示できます。

3　接続情報の読み込み

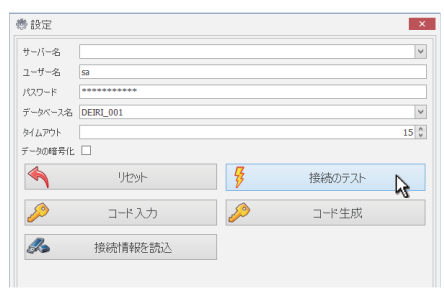
設定画面の [接続情報を読み込み] をクリックします。

「読込が完了しました。」のメッセージが表示されるので、［OK］をクリックします。

4　接続のテスト

［接続のテスト］をクリックします。

「DB への接続に成功しました。」のメッセージが表示されるので、［OK］をクリックします。



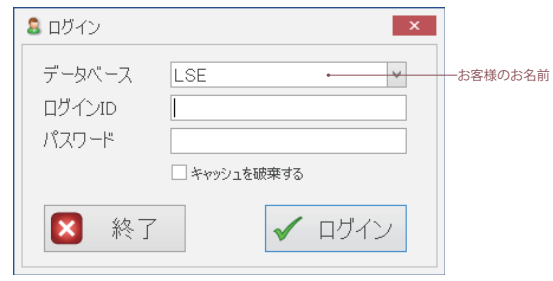
5　OK をクリック

［OK］をクリックします。

6　データベース項目の確認とログイン

ログイン画面が表示され、データベースの項目にお客様の名前が表示されていれば接続設定は終了です。

ログイン ID とパスワードを入力し、ログインして下さい。

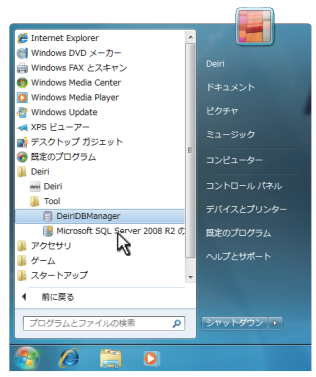


7-3.　Deiri バックアップリストアガイド

7-3-1.　バックアップ

1　起動

[スタートメニュー]-[すべてのプログラム]-[deiri]-[Tool]-[deiriDBManager] を選択し、deiri データベース管理ツールを起動します。



2　ログイン

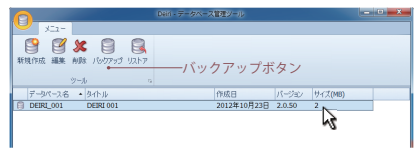
SQL Server の管理者 ID とパスワードを入力してログインします。初期設定値は以下になっています。

ログイン ID：sa

パスワード：deiri4Admin

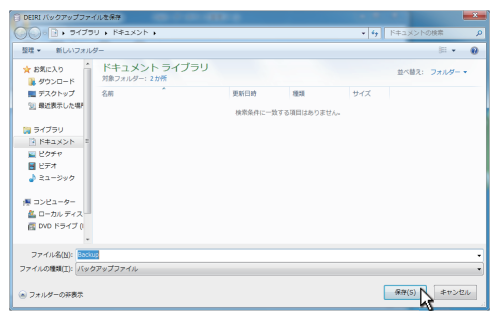
3　対象データベースの選択

作成済みのデータベースの一覧が表示されます。選択して「バックアップ」ボタンをクリックします。



4　保存

バックアップ先の指定とファイル名を入力します。「保存」ボタンをクリックすると、バックアップが開始されます。



5　終了

完了メッセージが表示されたらバックアップの成功です。

7-3-2.　リストア

1 起動とログイン

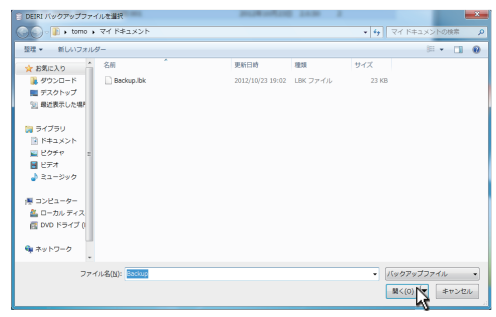
125 ページのバックアップ手順と同様に deiri データベース管理ツールを起動し、ログインします。

2 リストア

「リストア」ボタンを選択します。

3 ファイルの選択

バックアップファイルの選択ダイアログが表示されるので、復元したいバックアップファイルを選択します。

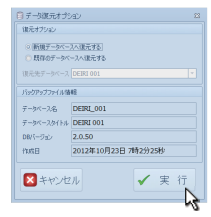


4 ファイルの復元

バックアップファイルの情報が表示されます。バックアップ対象データに間違いがないか､必ず確認して下さい。

復元オプションでは [新規データベースへ復元する] か [既存のデータベースへ復元する] を選択できますが、通常ですと [新規データベースへ復元する] を選択します。

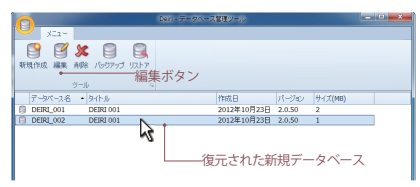
復元オプションの確認が完了したら「実行」ボタンをクリックします。



5 新規データベースの選択

データの復元が成功すると完了メッセージが表示され、復元された新規データベースが表示されます。

新規のデータベースをクリックし、「編集」ボタンを選択します。



6　タイトルの編集

復元元のデータベースと混同しないよう、タイトルを編集します。終了したら「OK」ボタンをクリックして下さい。

7　確認と終了

deiri データベース管理ツールを終了し、deiri を起動して下さい。deiri ログイン画面で既存のデータベースと、リストアしたデータベースが選択できるようになっています。

確認を終えたらリストアは終了です。

Deiri 起動時のログイン画面

memo

7-4.　システムセキュリティ

7-4-1.　ログインの追加

deiri を使用できる人を追加するには、deiri 内でログイン者を追加しなければいけません。以下の手順で追加しましょう。

1　起動とログイン

deiri を起動し、ログインします。

2　ログインボタンを選択

システムタブをクリックし、ログインボタンを選択します。データ表示エリアにデータが表示されます。

3　データの入力

新規データ入力エリアにこれから追加するログイン者名を入力します。ログイン ID 項目は、deiri 起動時に入力するログイン ID のことです。

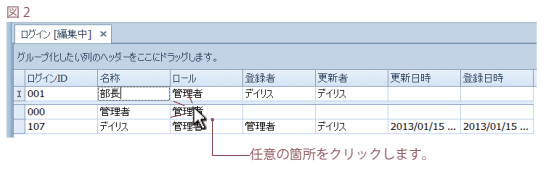
Deiri 起動時ログイン画面

4　データ登録

新規データの入力が終わったら、レコード操作ボタンの編集の終了 (✔) をクリックするか (図 1)、データ表示エリアの任意の箇所をクリックして下さい (図 2)。最下位に登録されます。レコード操作ボタンの詳しい説明は 28 ページの「レコード操作ボタン」を参照下さい。

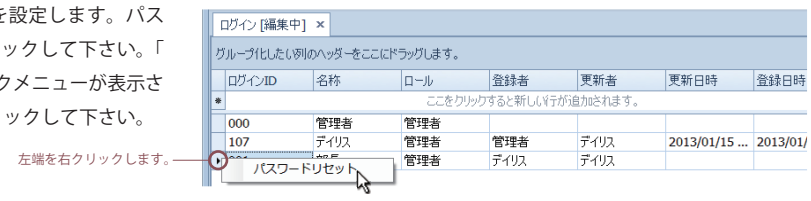
図 1

図 2



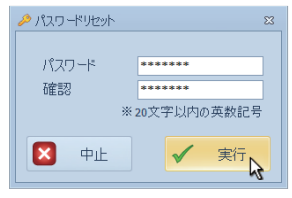
5 パスワードの設定

deiri の起動時に必要なパスワードを設定します。パスワードを設定したい列の左端を右クリックして下さい。「パスワードリセット」という右クリックメニューが表示されます。「パスワードリセット」をクリックして下さい。



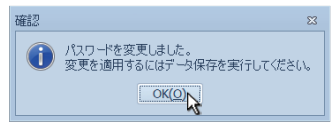
6 パスワードの登録

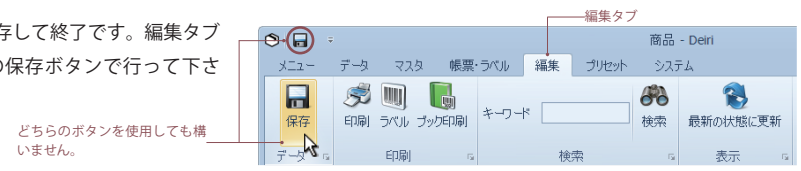
パスワードを入力します。確認のため「確認」にも同じパスワードを入力し、最後に [実行] をクリックします。



7 メッセージの確認

メッセージが表示されます。確認して [OK] をクリックして下さい。



8 保存

作業がすべて終わったら、保存して終了です。編集タブの保存ボタンか、deiri の左上の保存ボタンで行って下さい。